

279
110

少年團日本聯盟諸規程
昭和十年度



0052797-000

279. 5-110

少年團日本聯盟諸規程

少年團日本聯盟・編

少年團日本聯盟

昭和10年度版

昭和10

AHP

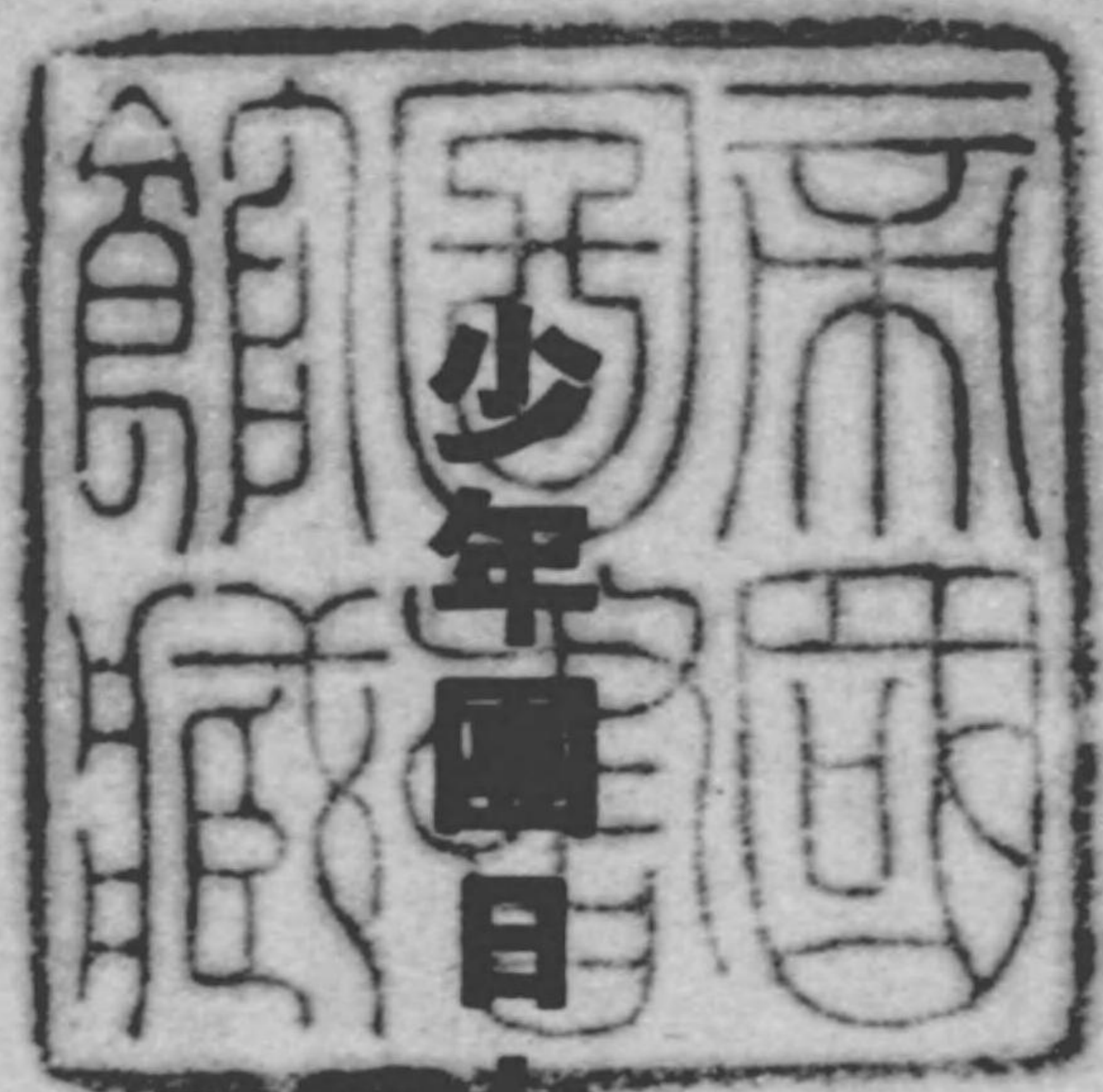


昭和十
年度版

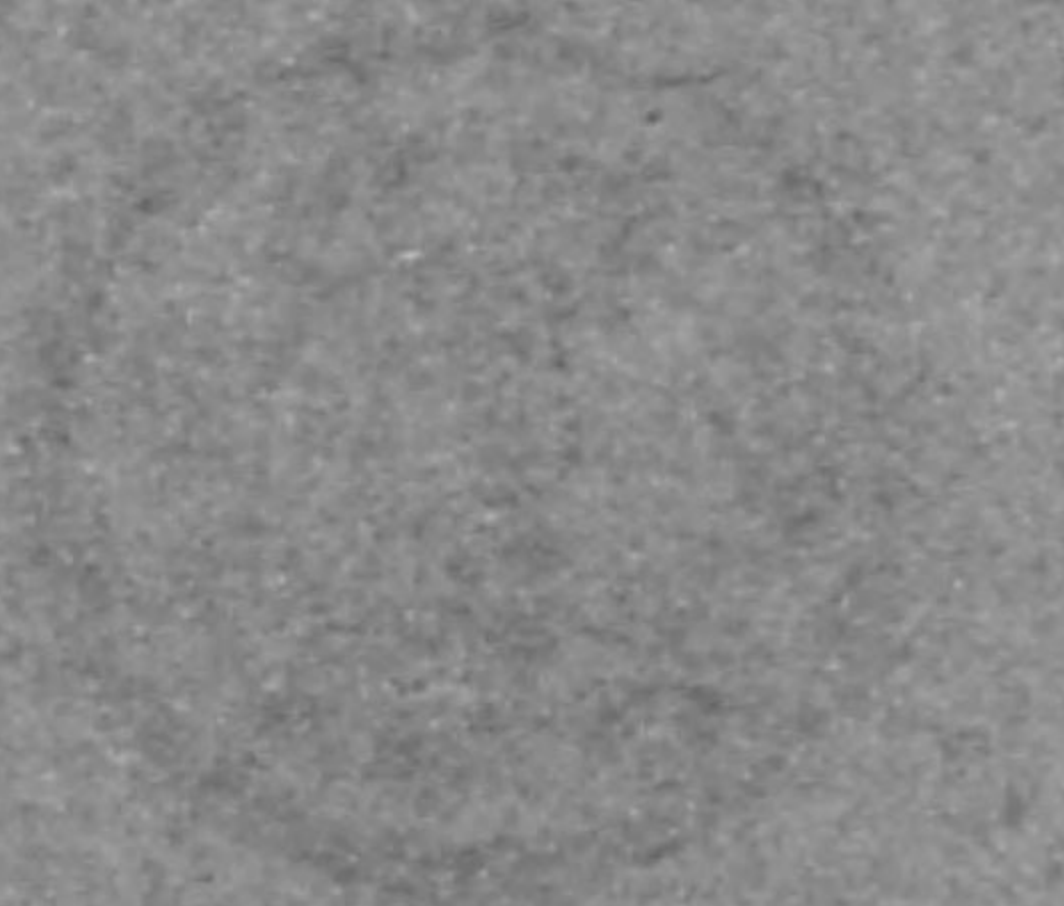
少年團日本聯盟諸規程

東京・文部省内

少年團日本聯盟



少年國日本聯盟諸規程



279.5-110



少年團日本聯盟本部規則



目次

宣 誓	一
おきて	一
標 語	一
幼年健兒ちかひとおきて	一
少年團日本聯盟規約	一
少年團日本聯盟加盟規則	五
少年團日本聯盟本部規則	三
指導者實修所規程	三
指導者實修所細則	七
地方委員規則	三

指導者講習會公認規則	三
健兒種別等級及制服規則	三
幼年健兒特技章程	五
少年健兒特技章程	五
海洋指導者實修所規程	一〇五
海洋健兒種別等級規則	一〇八
海洋健兒同幹部員服制並ニ諸徽章規定	一一六
海洋健兒等級及特技章考査規定	一一三
少年團敬禮式	一一三
ボーイスカウト運動國際會議及國際事務局定款並細則	一一〇
附 錄	
ボーイスカウト國際會議及事務局現況	一一六
圖 解	一一四

宣 誓

私は神聖なる信仰に基き名譽にかけて次の三條を誓ひます。

- 一、神明を尊び、皇室を敬ひます。
- 一、人の爲、世の爲、國の爲に盡します。
- 一、少年團のおきてを守ります。

おきて

- 一、健兒は忠孝を勵む。
- 二、健兒は公明正大、名節を生命とする。
- 三、健兒は有爲、世を益することを務とする。

- 四、健兒は互に兄弟、總ての人を友とする。
- 五、健兒は常に親切、動植物を愛する。
- 六、健兒は長上に信頼し、團各長に服従する。
- 七、健兒は快活、笑つて困難に當る。
- 八、健兒は恭謙、禮儀正しい。
- 九、健兒は勤儉質素である。
- 十、健兒は心身共に清い。

標語

そなへよ、つねに。

幼年健兒ちかひ及おきて

ちかひ

まごころをみがき、恩にむくいます。
おきてをまもり、人のためにつくします。

おきて

目上をうやまふ。
わがまゝをしなひ。

少年團日本聯盟規約



第一條 本聯盟ハ少年團日本聯盟ト稱ス

第二條 本聯盟ハ加盟登録シタル少年團並ニ單獨加盟健兒ヲ以テ組織ス

第三條 本聯盟ハ教育ニ關スル勅語ノ御趣旨ヲ奉體シ社會教育ヲ實施スルヲ以テ目的トス

第四條 本聯盟ハ第三條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一、教育指導ニ關スル研究調査

二、指導員ノ養成實修

三、團員ノ指導

四、集會講習會講演會等ノ開催

五、教育指導ニ關スル圖書雜誌ノ刊行

六、其ノ他必要ナル事項

第五條、教育實施ノ要項ニ從ヒ本聯盟ノ組織ヲ左ノ如ク大別ス

一、聯盟本部ニ於テ定メタル宣誓及おきてヲ遵用シ其ノ提唱スル健兒教育法ニ則リ社會教育ヲ實施スル諸團體

總括シテ健兒聯盟ト稱ス

二、前號ト同一ノ海洋諸團體

總括シテ海洋健兒聯盟ト稱ス

三、前二號ノ細目ニ依ルコトナクシテ社會教育ヲ實施スル諸團體

第六條、本聯盟ハ本部ヲ管分ノ間東京市麹町區三年町一番地（文部省構内）ニ置ク

第七條、本聯盟ニ總裁總長理事各一名副理事長理事監事顧問若干名ヲ置ク

總裁及總長ハ總會ニ於テ推戴ス、理事長ハ總長之ヲ選任シ其ノ任期ヲ四年トス

副理事長及理事ハ理事長ノ推薦ニ依リ總長之ヲ選任シ其任期ハ四年トス

監事及顧問ハ總長之ヲ委囑ス

第八條、本聯盟ハ總裁之ヲ統督シ總長之ヲ總理ス

理事長ハ總長ノ命ニ依リ本聯盟ノ事務ヲ提理シ且本聯盟ヲ代表シ一切ノ責ニ任ス

副理事長ハ理事長ヲ輔ケ理事長事故アルトキハ之ヲ代理ス理事長ハ總長及理事長ノ命ヲ承ケ本聯盟ノ事務ヲ掌理ス

監事ハ本聯盟ノ事業ヲ監理ス

顧問ハ本聯盟ノ重要事項ニ付總長ノ諮問ニ應ス

第九條、本聯盟ニ評議員若干名ヲ置ク、評議員ハ毎定期總會ニ於テ總長ノ指定スル員數ヲ選出シ其ノ任期ハ次ノ定期總會ノ終了シタルトキヲ以テ終ルモノトス

第十條、會議ヲ分チテ總會及評議員會ノ二トス

總會ハ加盟各國ノ代表者一名ヲ以テ組織シ每四年一回總長之ヲ招集ス、總長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ臨時總會ヲ招集ス

評議員會ハ必要ニ應シ總長之ヲ招集ス

評議員會ハ總長ノ諮問ニ應シ重要事項ヲ審議ス

總會ノ議長ハ總長之ニアタリ評議員會ノ議長ハ理事長之ニアタル

總會及評議員會ノ議事ハ各出席者ノ過半數ニヨリ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 本聯盟ハ地方ニ地方委員若干名ヲ置キ理事長之ヲ委囑ス

第十二條 聯盟本部ノ經費ハ贖出金、助成金、寄附金及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ贖出金ハ一團又ハ單獨加盟健兒一人毎ニ年額參圓トス

第十三條 第三條第一號第二號ニ屬スル加盟團ハ「ボーイスカウト」國際事務局ニ加入登録ス

第十四條 本規約ハ總長之ヲ提案シ總會ノ承認ヲ經ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第十五條 本規約ノ施行ニ付必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

少年團日本聯盟加盟規則

第一條 本聯盟ニ加盟セントスルモノハ別表第一號又ハ第二號ノ定ムル様式ニ依リ申込書ヲ當該地方聯盟ヲ經由シテ本聯盟ニ提出スヘシ

但シ地方聯盟ナキ地方ニアリテハ直接本聯盟ニ提出スルコトヲ得

第二條 本聯盟ニ加盟セントスル團ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一、團長、副團長ハ年齢滿二十歲以上タルコト

二、隊長、副隊長ハ年齢滿十八歲以上タルコト

三、指導者ハ中等學校卒業程度ノ常識ヲ有シ健兒教育ニ關スル理解アルモノタルコト

四、附近既加盟團ノ推薦ヲ受クルコト

但シ既加盟團ノ推薦ヲ得難キ事情アルトキハ本聯盟地方委員又ハ評議員ノ推薦ヲ受ケ事由ヲ具

シ申込ムコトヲ得

第三條 年輪滿十八歲以上ニシテ將來少年團ヲ組織セントスル意志ヲ有スルモノハ現ニ其ノ居住所附近ニ所屬スヘキ加盟團ナキトキニ限り本聯盟規約第二條ニ依リ單獨健兒トシテ加盟ヲ申込ムコトヲ得

第四條 本聯盟ニ於テ加盟申込ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ適當ト認メタルトキハ加盟團原簿ニ登録シ地方聯盟ヲ經由シテ當該團又ハ單獨健兒ニ通知シ聯盟公報ヲ以テ之ヲ公表ス
但シ地方聯盟ナキトキハ直接當該團又ハ單獨健兒ニ通知ス
前項ノ登録通知ヲ受ケタル加盟團又ハ單獨健兒ニシテ地方聯盟地域内ニアルトキハ當該地方聯盟ニ所屬スヘキモノトス

第五條 加盟團ハ第六條又ハ第七條ニヨリ本聯盟ノ承認ヲ經テ行政區劃ノ地域内ニ於テ聯合體ヲ組織スルモノトス

組織方法ハ別表第四號ノ様式ニ依ルモノトス

第六條 一府縣ニ於ケル加盟團ノ數カ當該府縣ノ郡市ノ數ト同數ニ達シタルトキハ聯合體ヲ組

織シ府縣ノ地方名ヲ冠シ何々府縣地方聯盟ト稱ス

六大都市ニ於テハ當該市域内ノ加盟團ヲ以テ地方聯盟ヲ組織スルコトヲ得

北海道、臺灣、樺太、朝鮮、關東州、南洋及外國所在加盟團ニシテ聯合體ヲ組織セントスルトキハ加盟團ノ數、地域及呼稱ニ關シ本聯盟ニ於テ適當ト認メタルトキ之ヲ組織スルモノトス

第七條 一郡市區内ニ於テ加盟團ノ數五個以上ニ達シタルトキハ地方聯盟ノ承認ヲ經テ聯合體ヲ組織スルコトヲ得

此場合ニ於テハ郡市區名ヲ冠シ何々(郡市區)聯合少年團ト稱ス

前項ノ聯合體ハ地方聯盟ノ承認ヲ經テ郡市區二個以上ノ地域ニ亙リ組織スルコトヲ得但シ地方聯盟ナキトキハ本聯盟ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第八條 第六條及第七條ノ聯合體ヲ組織セントスルトキハ當該地域内ノ加盟團全部ヲ包含スルコトヲ要ス

第九條 同宗派ニ屬スル加盟團ニシテ地方聯盟ノ地域二個以上ニ亙リ連絡體ヲ組織セントスル

トキハ本聯盟ノ承認ヲ經ルヲ要ス

前項ノ連絡體ノ本部ヲ母團ト稱シ當該地方聯盟ノ組織内ニ入ルモノトス

第十條 第六條、第七條、第九條ノ聯合體及連絡體ヲ組織セントスルトキハ別表第三號ノ様式

ニ依リ申請書ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條 地方聯盟ノ掌理事項左ノ如シ

一、加盟團ノ指導統制

二、健兒教育ノ普及發達ニ關スル事項

三、加盟申込團及單獨健兒申込者ノ適否審査

四、加盟團及單獨健兒ノ離出金ノ取纏メ

五、其他本聯盟ノ知照スル事項

第十二條 郡市區聯合少年團ハ地方聯盟ノ指定スル所ニ從ヒ地方聯盟ノ掌理事項ヲ分掌ス

第十三條 聯合體、連絡體及加盟團ノ指導幹部ノ呼稱ハ左ノ例ニ依ル

地方聯盟

地方聯盟長

地方聯盟理事長

地方聯盟理事

聯合體

聯合少年團長

聯合少年團理事長

聯合少年團理事

加盟團

團長

副團長

隊長

副長

第十四條 加盟團指導者及團員ハ同時ニ加盟團二個以上ノ指導者及團員タルコトヲ得ス

第十五條 加盟團及單獨健兒ノ離出金ハ毎年四月末日限り當該年度ノ離出金ヲ所屬地方聯盟ニ納

付シ地方聯盟ハ五月末日迄ニ之ヲ取纏メ本聯盟ニ納付スヘシ、但シ加盟當初ニ於テハ登録承認通

知ヲ受ケタルトキ直チニ納付スヘシ

地方聯盟ナキトキハ毎年四月末日迄ニ當該年度ノ離出金ヲ直接本聯盟ニ納付スヘシ

第十六條 加盟團及加盟員ニシテ本聯盟ヲ脫退セントスルトキハ事由ヲ具シテ地方聯盟ヲ經由シ

本聯盟ニ届出スヘシ

地方聯盟ナキトキハ直接本聯盟ニ届出スヘシ

第十七條 加盟團又ハ加盟員ニシテ本聯盟ノ統制ニ反シ又ハ義務ヲ怠リ或ハ名譽ヲ毀損シ到底協同ノ途ナシト認ムルトキハ登録ヲ取消ス

第十八條 第十六條ニヨリ脱退シタル團及第十七條ニヨリ登録ヲ取消シタル團ハ加盟團原簿ヨリ

削除シ聯盟公報ヲ以テ之ヲ公表ス

前條ニヨリ登録ヲ取消シタル加盟團及加盟員ノ既納贖出金ハ之ヲ返戻セス

第十九條 外國ニ於テ團ヲ組織シ本聯盟ニ加盟セントスルモノハ豫メ管轄日本領事館ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス其ノ居留國ニ於テ國際事務局ニ登録セル少年團體ノ組織アルトキ共ノ團體ノ承認ヲ經ルヲ要ス

附 則

第二十條 本規則ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ加盟規則ハ之ヲ廢止ス、但シ本規則施行以前ニ登録シタル地方聯盟、聯合體及指導幹部ノ名稱ハ從來ノ呼稱ヲ用フルコトヲ得

別表第一號乃至第三號様式ハ加盟申込書ノ様式ニツキ之ヲ略ス

別表第四號ハ地方聯合體組織ノ様式ニツキ同様式ハ本聯盟組織一覽表ニ同シ

少年團日本聯盟本部規則

第一章 總 則

第一條 本部ハ聯盟一切ノ事務ヲ統理ス

第二條 本聯盟事務執行上ノ要綱及特ニ其議ニ附セラレタル事項ヲ議決スルタメ隨時理事會ヲ開ク、但シ必要ニ應シ理事會ニ代フルニ書面回審ヲ以テスルコトヲ得

理事會ハ理事ヲ以テ組織シ理事長ヲ以テ議長トス

參事ハ理事會ニ列ス

第三條 理事會ニ附セラルヘキ事項概要左ノ如シ

- 一、加盟ノ承認、拒絕又ハ取消
- 一、表彰及資格審定

- 一、法規及教範ノ制定、改廢
 - 一、豫算及決算
 - 一、盜難、紛失等缺損處分
 - 一、圖書ノ出版
 - 一、總會及評議員會ニ關スル事項
 - 一、指導計畫
 - 一、合同野營及重ナル集會ニ關スル事項
 - 一、國際會議及國際大會ニ關スル事項
 - 一、重ナル國際關係事項
 - 一、前記ノ外理事會ニ提議ヲ要スト認ムル事項
- 議事ノ經過ハ議事錄ニ登錄シ理事長之ニ捺印ス

第四條 監事ハ隨時諸帳簿ヲ檢査シ處務ノ説明及文書ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

監事ハ總會ニ報告セントスル決算書ヲ調査シ其意見ヲ添附ス

第二章 職 制

第五條 總長、理事長、副理事長、理事及監事ヲ本部役員トス

參事、主事、主事補、書記及書記補ヲ本部職員トシ理事長之ヲ委囑ス必要ニ應シ囑託員並ニ雇傭人ヲ置クコトヲ得

第六條 本部ニ審議委員ヲ置キ總長之ヲ委囑ス

審議委員ハ諮問事項ヲ審議シ又意見アルトキハ之ヲ理事長ニ提出ス

審議委員ハ必要ニ應シ本部ノ事務ヲ擔任シ又理事會ニ列スルコトアルヘシ

第七條 役員、職員、其他ノ事務分擔ハ總長ノ命ヲ受ケ理事長之ヲ定ム

第三章 組 織

第八條 本部ノ組織左ノ如シ

總務部

秘書、庶務、經理、編輯ノ四班ヲ置キ教化部、需品部、音樂隊ヲ附屬セシム

健兒部

指導、健兒、國際ノ三班ヲ置キ指導者實修所ヲ附屬セシム

海洋健兒部

海洋指導、海洋健兒ノ二班ヲ置キ海洋指導者實修所ヲ附屬セシム

第四章 分 掌

第九條 加盟團ニ對スル分掌ヲ左ノ如ク定ム

一、本聯盟規約第五條第一號ニ屬スル加盟團ヲ健兒部ノ所掌トス

二、同條第二號ニ屬スル加盟團ヲ海洋健兒部ノ所掌トス

三、同條第三號ニ屬スル加盟團ヲ總務部ノ所掌トス

第十條 總務部ハ經營ニ關スル事務ヲ總理シ教化部、需品部、音樂隊ニ關スル事務ヲ管理ス

秘書班ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一、機密事項

一、人 事

一、總長及理事長ノ職印、聯盟印ノ管守

一、決議ヲ要スル書類ノ取扱

一、理事會ニ關スル事項

一、審議委員ニ關スル事項

一、他部ニ屬セサル重要事項

庶務班ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一、普通文書ノ發受保管

一、加盟審査及登錄

一、團勢調査

一、經營ニ關スル法規及施設

- 一、集會及儀制
 - 一、記錄及年報
 - 一、他部ニ屬セサル一般庶務
- 經理班ハ左ノ事務ヲ掌理ス
- 一、豫算決算
 - 一、出納給與
 - 一、金錢及物品會計ノ監査
 - 一、物品用度
 - 一、土地建物ノ管理
- 編輯班ハ左ノ事務ヲ掌理ス
- 一、公報及雜誌ノ編輯發行
 - 一、圖書及小刊行物ノ編輯發行

- 一、圖書ノ購入、受入、保管
- 教化部ハ左ノ事務ヲ掌理ス
- 一、第九條第三號ニ屬スル諸團體ノ助成
 - 一、社會一般ニ對スル誘導
- 需品部ハ左ノ事務ヲ掌理ス
- 一、需品ノ製作、購入、供給
- 音楽隊ハ左ノ事務ヲ掌理ス
- 一、直屬音楽隊ノ管理及指導
 - 一、音楽教育ニ關スル助成
 - 一、歌詞及曲譜ノ研究
- 第十一條 健兒部ハ健兒聯盟ノ管理及指導ニ關スル事務並ニ國際關係ノ事務ヲ掌理シ指導者實修所ヲ管理ス

指導班ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一、教育訓練ニ關スル調査、研究、審議
- 一、教育訓練ニ關スル法規及教範ノ制定、改廢
- 一、教育資料ノ調査、編纂、翻譯

健兒班ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一、健兒聯盟各國ノ管理及加盟審査
- 一、合同訓練ノ企畫及實施
- 一、健兒ノ資格審査

國際班ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一、國際關係事項
- 一、外國トノ間ノ文書ノ發受、保管
- 一、外國出張員ニ關スル事項

一、在留外國人ニ關スル事項

一、文書ノ翻譯

指導者實修所ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一、指導ニ關スル研究、審議、統一
- 一、指導者ノ養成及實修
- 一、指導者ノ資格審査

第十二條 海洋健兒部ハ海洋健兒聯盟ノ管理及指導ニ關スル事務ヲ掌理シ海洋指導者實修所及直屬船艇並ニ附屬具ヲ管理ス

海洋指導班ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一、海洋健兒聯盟ノ教育訓練ニ關スル調査、研究、審議
 - 一、海洋健兒聯盟ノ教育訓練ニ關スル法規及教範ノ制定、改廢
- 海洋健兒班ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一、海洋健兒聯盟各團ノ管理及加盟審査

一、合同訓練ノ企畫及實施

一、海洋健兒ノ資格審査

海洋指導者實修所ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一、海洋指導者ノ養成及實修

一、海洋指導者ノ資格審査

附 則

第十條第六項ノ事務ハ當分ノ間適當ノ者ヲ指定シ其ノ全部若ハ一部ヲ經營セシムルコトヲ得

少年團日本聯盟指導者實修所規程

第一條 指導者實修所ハ少年團教育法ニ關スル諸般ノ攻究ヲ遂ケ實修生ヲシテ本教育法ノ眞髓ヲ體得セシムルヲ以テ目的トス

第二條 指導者實修所ヲ分チテ中央實修所及地方實修所トシ幼年部、少年部、青年部ノ三教程ニ分チ適當ト認ムル地ニ常設、若シクハ臨時開設シ地名ヲ冠シ道場ト稱ス

第三條 中央實修所ニ於ケル實修ヲ理論教程、實地教程及實際指導ノ三トス
地方實修所ヲ甲乙二種ニ分チ、理論及實地ノ二教程トシ乙種實修所ハ初歩ノ實修ヲ以テ目的トス
乙種實修所ニ於テハ同一年度内ニ於テ前後ニ區分シ兩期ニ分チテ實施スル事ヲ得
但シ 前後兩期ヲ通シ同一所長ノ下ニ實修スルヲ原則トス

第四條 中央實修所ニ左記職員ヲ置ク

長 一名 中央及地方實修所ヲ總轄ス

副長 二名 所長ヲ補佐ス

所員 若干名 所長ノ命ヲ受ケ教務及事務ヲ分擔ス

地方實修所ノ組織ハ中央實修所ニ準ス

多年實修所長トシテ功績顯著ナル者ハ名譽實修所長ニ推任ス

第五條 實修生ハ中央實修所及甲種地方實修所ニアリテハ年齢滿二十歲以上、乙種地方實修所ニアリテハ年齢滿十八歲以上タルヲ本則トシ左記ノ資格ヲ有スル希望者中ヨリ入所ヲ許ス

一、聯盟役員、職員、審議員、評議員、地方委員

二、地方聯盟役員、職員、委員

三、加盟團指導者

四、前三者ノ一ヨリ推薦ヲ受ケ詮衡ヲ經タル者

五、未加盟者ニアリテハ入所ト共ニ加盟スヘキ意志アルコトヲ表明シタル者トス

志望者ハ履歷書推薦書ヲ添ヘテ其旨實修所長ニ申出ツルモノトス

第六條 實修ノ期間其他ノ要項ハ其都度之ヲ告示ス

第七條 實修生ハ各自ノ食費其他ノ實費ヲ負擔スルモノトス

第八條 各實修所ニ於ケル理論教程若クハ實修教程ヲ修了シ詮衡ニ合格シタル者ヲ修了者トス

第九條 中央實修所ニ於ケル理論及實地ノ兩教程ヲ修了シ指導經營ノ實績優良ナルモノヲ特修者トス

トス

第十條 實修所長特修者及修了者ハ特定ノ徽章ヲ佩用スルモノトス

第十一條 各實修所ノ實地教程修了者ヲ合セテ一組織トシ特定ノ襟掛ヲ着用セシム

第十二條 指導者ノ資格審査ハ中央實修所ニ於テ之ヲ總轄シ地方實修所アル地域ニアリテハ地方實

修所ニ於テ之ヲ行フ

實修所用襟飾地色ニ關スル件

指導者實修所用トシテ選ビタル襟飾ノ地色ハ往々コレト同一ノモノヲ使用セラル、團アルニ付キ改メテ鼠色ノモノヲ選定シタルニツキ自今加盟各團ニ於テ之ト同一又ハ類似ノモノヲ用ヒサル様セラレ度シ

少年團日本聯盟指導者實修所細則

第一條 少年團日本聯盟指導者實修所規程第十條ニ依ル實修所修了者ノ組織ヲ左ノ通り定ム

第二條 本組織ヲ不二健兒蕃社ト稱ス指導者實修所ニ附屬シ本部ヲ中央實修所ニ置ク

第三條 本蕃社ハ蕃員相互ノ協和提携ト不斷ノ實行練磨トニ依リテ指導經營ニ關スル研究進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條 本蕃社ハ左ノ三事ヲ以テ清規トス

實踐躬行

精究教理

道心堅固

第五條 本蕃社ハ聯盟員タル修了者ヲ以テ組織ス、各蕃員ハ修了證ノ番號ヲ以テ蕃員名簿ニ登錄ス、蕃本部ノ事務ハ酋長之ヲ統理ス酋長ハ中央實修所長之ニ當ル

第六條 道府縣、朝鮮、臺灣、關東州ノ各地區ニ各其名ヲ冠シタル蕃ヲ組織シ蕃長ヲ互選ス

樺太ハ北海道ニ屬ス外國ニ於ケル蕃ハ本部ニ直屬ス

同一地區内ノ蕃員二十五名ヲ超ル毎ニ適宜蕃ノ數ヲ増加シ蕃毎ニ番號ヲ附ス、但シ番號ノ外地名ニ依リ各蕃各個ノ名稱ヲ定ムルコトハ任意トス

蕃長ノ任期ハ一ケ年トシ毎年四月三日ヲ以テ改選期トス但シ重任ヲ妨ケス

前項ニ依リ同一地區内ヲ二蕃以上ニ分割セシ場合聯蕃ヲ組織ス聯蕃長ハ族長之レヲ推任ス、族長アラサル地ニアリテハ本部酋長之ヲ推任ス

第七條 道府縣ヲ左ノ地區ニ大別シ一區内ヲ蕃全部ヲ以テ族ヲ組織ス

關東 東京、神奈川、埼玉、群馬、栃木、茨城、千葉

東海 静岡、愛知、山梨、岐阜、三重

北陸 福井、石川、富山、新潟、長野

奥羽 福島、宮城、山形、岩手、秋田、青森

北海道

近畿 京都、大阪、兵庫、滋賀、奈良、和歌山

中國 岡山、廣島、山口、鳥取、島根

四國 德島、高知、香川、愛媛

九州 福岡、大分、佐賀、熊本、鹿兒島、宮崎、長崎

關東、東海、北陸、奥羽、北海道ヲ總括シテ東部ト稱シ近畿、中國、四國、九州ヲ總括シテ西部ト稱ス、朝鮮、臺灣、關東州ハ當分ノ内、蕃ノ儘本部ニ直屬シ相當ノ時機ニ達シタル時各族ヲ組織ス

第八條 族ノ長ヲ族長ト稱ス、酋長之ヲ推任シ任期ヲ二ケ年トス、但シ重任ヲ妨ケス

酋長ハ副酋長ヲ推任スル外蕃員中ヨリ所要ノ役員ヲ依囑スルコトヲ得、族モ之ニ倣フ

第九條 酋長ハ修了者中適當ト認ムルモノヲ各譽蕃員ニ推任スルコトヲ得
名譽蕃員ハ各蕃ニ屬スルコトナシ

第十條 英國ギルウエル實修所又ハ同系統ノ外國實修所ニ於テ正規ノ實修ヲ了シタル聯盟員ニ對シテハ修了者ト同一ノ待遇ヲナスモノトス

第十一條 實修所規程第十一條ニ依ル襟飾ハ鼠トシテ之ニ附屬スル紋章ハ古鏡ノ裏面ニ不二ノ二字ヲ刻シタルモノトス

徽章及襟飾ハ有資格者ニ於テ實費ヲ支辨シ實修所ヨリ受領スルモノトス
聯盟員タルノ資格ナキニ至リタルトキハ徽章及襟飾ノ使用ヲ禁止ス

第十二條 實修所規程第十條ニ依リ特修證所有者ノ佩用スヘキ徽章ヲ三樹章ト稱ス

紳、櫻及楠ノ材ヲ以テ製作シタル勾玉形各一個ノ黑紐ヲ以テ繫キ頸部ニ懸クルモノトス

地方實修所長ハ同シク各二個繫キタルモノヲ佩用スルモノトス

前項ノ外青年健兒部特修證所有者ハ眞紳ノ材ヲ以テ製作シタル平玉ノ、少年健兒部特修證所有者ハ管玉ノ、幼年健兒部特修證所有者ハ同シク圓玉ノ根付ケヲ三樹章黑紐ノ結ビ玉ニ接シテ附着スルモノトス

地方實修所長ハ受持ノ教程ニ應シテ一個又ハ兩個ヲ佩用ス三樹章ハ特修證ト共ニ地方實修所長用三樹章ノ推薦狀ト共ニ中央實修所長之ヲ交付ス、眞紳ハ伊勢ヨリ、櫻ハ吉野ヨリ、楠ハ富士ヨリ何レモ由緒アル材ヲ以テ作りタルモノトス

第十三條 目的ヲ達成スル爲メ族及蕃ニ於テ時々小集會ヲ催シ毎年一回蕃社ノ大會ヲ開催シ又臨時蕃報ヲ刊行ス

前項ノ集會ヲ和敬蕃會ト稱シ又常設集會所ヲ清寂蕃舍ト名ツク

第十四條 經費ハ蕃員ノ贖金其他ヲ以テ支辨ス

前項ノ贖金ハ各員金一圓二十錢トシ内金二十錢ヲ蕃ニ於テ取纏メ半期毎ニ本部ヘ拂込ムモノトス

第十五條 族ニ於テ蕃舍ヲ設備スル場合ハ所在ノ蕃ト合同シテ行フモノトス此場合前條以外ノ經費ヲ要スル時ハ其蕃ニ於テ負擔スルモノトス

第十六條 族長聯蕃長及蕃長ハ各蕃社ノ出納ヲ監理シ毎年三月末日調決算ヲ本部ニ報告シ蕃本部ハ蕃全部ノ出納ヲ集計シテ蕃報ニ公表スルモノトス

地方委員規則

三二

- 第一條 本聯盟ハ規約第十一條ニ依リ適當ト認ムル地方ニ地方委員ヲ置ク
- 第二條 地方委員ハ本聯盟理事長之ヲ依囑シ其ノ任期ヲ二年トス
- 第三條 地方委員ハ指定スル地域内ニ於ケル左ノ任務ヲ擔當ス 但シ地方聯盟アル地方ニアリテハ當該地方聯盟長ノ指示ヲ受クルモノトス
 - 一、教育指導ニ關スル研究調査
 - 二、指導者ノ輔導
 - 三、加盟ヲ希望スル團ノ指導誘掖
 - 四、健兒等級及特技考查規程ニ定ムル考查ニ關スル任務
 - 五、其他本聯盟ノ指示スル事項
- 第四條 地方委員ハ前條第四號ノ任務遂行ニ關シ考查委員ヲ本聯盟ニ推薦シ且必要ニ應シ臨時考

査委員ヲ依囑スルコトヲ得

第五條 地方委員ノ任務遂行上必要ト認ムル經費ハ本聯盟ニ於テ支辨スルコトアルヘシ

健兒等級及特技考查規程

- 第一條 本聯盟加盟團健兒ノ等級及特技ノ考查ハ本規定ニ依リ之ヲ施行ス
- 第二條 見習少年健兒二級少年健兒ノ等級及幼年健兒ノ等級並ニ特技ノ考查ハ本聯盟所定ノ諸規程ニ遵ヒ所屬團長之ヲ行フモノトス
- 第三條 一級少年健兒ノ等級及少年健兒ノ特技ノ考查ハ所屬團長ノ請求ニヨリ地方委員之ヲ行フモノトス
- 第四條 本聯盟理事長ハ第三條ニヨリ地方委員カ行フ考查ノ一部ヲ擔當シ又ハ之ヲ補佐セシムル爲メ地方委員ノ推薦セシ者ニ考查委員ヲ依囑ス其ノ任期ハ一年トシテ重任ヲ妨ケス、必要アル場合地方委員ハ臨時考查委員ヲ依囑シ前項考查ニ準シ考查事務ニ當ラシムルコトヲ得
- 第五條 地方委員ハ考查ニ依リ合格シタル者ノ成績ヲ所屬團長ニ通告スルト共ニ地方聯盟長及本

三三

聯盟理事長ニ報告スルモノトス

第六條 第三條考查ニ合格シタル者ハ本聯盟所定ノ原簿ニ登録ス

第七條 所屬團長ハ前條ノ登録者ニシテ團籍ニ異動ヲ生シタルトキハ當該地方聯盟ヲ經由シ本聯盟理事長ニ報告スルモノトス

第八條 考查ニ合格シタル者ト雖モ地方委員ハ必要ニ應シ再考查ヲ行フコトアルヘシ

再考查ノ結果其ノ實績其資格ニ相當セスト認めタル時ハ其旨第五條ニ準シ通告及報告ヲナスモノトス

第九條 考查ニ關スル經費ハ當該團並ニ當該地方聯盟ニ於テ負擔スルモノトス

トス

附 則

一、地方委員ナキ地方ニ於ケル考查ハ本聯盟理事長ニ於テ適宜之ヲ施行スルモノトス

指導者講習會公認規則

第一條 健兒教育ノ一般ヲ研究體得セシムルコトヲ目的トスル講習會ニシテ本規則ニ該當スルモノハ本聯盟ニ於テ之ヲ公認ス

第二條 地方聯盟、官公署又ハ其ノ他ノ公共團體ニシテ本規則ニ依リ講習會ヲ開催セントスルトキハ左記事項ヲ本聯盟ニ報告シ公認ノ請求ヲナスモノトス

一、主催者氏名 二、開催地 三、開催期日及期間 四、役員氏名

五、講習生ノ身分職業及豫定人員 六、經費

第三條 講習會ニ要スル役員左ノ如シ

主任講師 會期中講習生ノ指導監督ノ責ニ任ス

講師 教務ヲ分擔ス

幹事 庶務會計ヲ處理ス

必要ニ應シ會長及其ノ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第四條 講習ノ科目教程ハ實修所ニ準シ野營生活ノ指導ヲ中心トシ其ノ期間ハ通計四日以上トシテ内ニ夜以上野營ヲ行フモノトス

第五條 講習生ノ資格左ノ如シ

- 一、少年團指導者及其ノ關係者
- 二、年齢十七歳以上ニシテ將來少年團指導者タラントスル者

第六條 講習會ノ全科目、教程ヲ修了シタル者ハ本聯盟指導者公認講習會修了者名簿ニ登録シ「聯盟公報」ヲ以テ之ヲ發表ス

第七條 講習會修了者ニシテ前條名簿ノ登録證ヲ必要トスル者アルトキハ其ノ講習會ノ主催者、主任講師又ハ當該修了者ノ請求ニ依リ之ヲ交付ス

講習會公認規則

健兒種別等級及制服規則

第一條 健兒ノ種別ヲ次ノ如ク定ム

幼年健兒 滿八歳乃至十二歳

少年健兒 同十一歳乃至十八歳

青年健兒 同十七歳以上

第二條 制服ハ健兒作業ニ當ル場合ニ着用スルヲ本體トス

當分ノ間各團便宜ノ服裝ヲ代用スルコトヲ得

但幼年健兒ハ少年健兒ト同一ノ服裝ヲナササルヲ可トス

第三條 健兒章ハ加盟ヲ表徴スル最モ意義アル徽章ニシテ制服ノ着用ノ場合ニ限り佩用スヘキモノトス

代用服及平常服ニハ略章ヲ用ヒ折返シ襟ノ鈕孔若シクハ之ニ準シタル位置ニ佩フ

健兒章ヲ帽章及胸章ノ二種トス

帽章ハ少年健兒以上ニ在リテハ金屬製トシ幼年健兒ニアリテハ織物製トス

胸章ハ織物製トシ上衣ノ左ポケットノ裏ニ縫着ク

本部ノ承認ヲ經ルコトナクシテ聯盟所定以外ノ徽章ヲ制服着用ノ場合ニ佩フルコトヲ得ス

本部ノ承認ヲ經テ地方聯盟ニ於テ地方ヲ表示スヘキ徽章ヲ制定スルコトヲ得

但、織物製トシ上衣右胸部(ポケットアル時ハ其直上)ニ縫着クルモノトス

幼年健兒

第四條 幼年健兒ノ制服ハ次ノ如ク定ム

帽子 オリーブ色木綿地ノ登山帽型

上衣 帽子ト同色同質ノ襟巾セマキ水兵服型ニシテ胸ニ狼ヲ鏡リタル繰抜キノ型アルモノ

炎暑ノ季節ニアリテハ白又ハ鼠色運動衣ヲ用フルコトヲ得

一切金貝釦ヲ用ヒス

胸紐穴ハ糸ニテカガリ袖裾共ニ紐ヲ通シタルモノ

ズボン 紺黒又ハ茶色ノ膝ニ達セサル半ズボン

襟掛 木綿又ハ毛織ノ方形巾若シクハ三角巾ニシテ同一隊ニハ同色ノモノヲ用フ

靴 黒又ハ茶革ノ半靴若シクハ編上靴

團名章 長サ六種幅一種半ノ白テープニ漢字、假名文字若クハ羅馬字ヲ以テ團名(上ニ冠シタル

特殊ノ名稱ノミ)ヲ黒字ニテ左横書ニシタルモノトシ右腕ノ上端ニ縫着ク

組別章 三種等邊三角形羅紗地ニシテ尖端ヲ上ニシ左腕ノ上部ニ縫着ク同一組ハ同色ノモノヲ用

フ

等級章 外圓一種内圓二分ノ一種ノ同心圓ニシテ外圓黃、内圓赤、二級ハ一個一級ハ二個トシ上

衣健兒章ノ右又ハ兩側ニ一種ヲ距テ縫着ク

特技章 右腕ニ縫着ク

年功章 赤座ニ銀星、一年ヲ經ル毎ニ一個ヲ加ヘ左乳部ニ右ヨリ横ニ並列シテ佩フ
外 套 適 宜

右以外ノモノヲ外部ニ顯ハルル如ク着用スルコトヲ得ス

第五條 見習幼年健兒

幼年健兒ノ敬禮法ヲ知り宣誓ヲナシタル時ハ見習幼年健兒トシ制服ノ着用ヲ許シ幼年健兒章ヲ佩用セシム

第六條 二級幼年健兒

見習幼年健兒ニシテ次ノ考査ニ合格シタル者ヲ二級幼年健兒トシ二級章ヲ佩用セシム
考査ハ團長之ヲ行フ

一、兩陛下ノ御名及御齡ヲ知り奉ルコト

二、皇國ノ紀元ト其意義ヲ知り國旗ノ意義ト掲揚法ヲ知ルコト

三、孝行ニ關スル例話三ツ以上ヲ知り最モ善シト信スルモノ一ツヲ物語ルコト

四、鳥獸乗物ノ内何レカヲ選ヒ其ノ記憶畫五種以上ヲ描クコト

五、結索法四種（本結、一重接、卷結、紡結）及其用法ヲ知ルコト

六、デングリ返リ、略々同身長ノモノニ對シ蛙飛ヒ、輪廻シ又ハ8字形ニ片足跳ヒヲナスコト

七、種ノ投ケ方受ケ方——十米ヲ距テ左右各六回ノ中四回正シク投ケ且ツ受取ルコト、投ケ方ハ

初メ右手ニテ後左手ニテ行ヒ、受ケ方ハ片手ニテ行フコト

八、繩飛ヒヲ後シロ廻シニ三十回ナスコト、繩ハ自ラ廻シ兩足ヲ揃ヘテ跳フモノトス

九、頭上ニ幼年健兒教範ト略ホ同シ大キサ同シ重サノ物三個載セテ十米歩行スルコト

十、手、足、爪、齒、目、耳ノ衛生法ニ就テ知り且ツ口ヲ閉チ鼻ニテ呼吸スル必要ヲ知ルコト

十一、時計ノ見方ヲ知ルコト

十二、見習トシテ三ヶ月以上ノ勤務ヲナスコト

第七條 一級幼年健兒

二級幼年健兒ニシテ次ノ考査ニ合格シタルモノヲ一級幼年健兒トシ一級章ヲ佩用セシム

- 一、君ケ代ノ意味ヲ知リコレヲ獨唱シ得ルコト
- 二、恩返シ及人ノ爲メノ例話三ツ以上ヲ知リ最モ善シト信スルモノ各一ツヲ物語ルコト
- 三、八方位ヲ知ルコト
- 四、片假名手旗信號又ハ「モールス」符號ヲ理解シ十字ノ内七字ヲ正シク發受シ得ルコト
- 五、木材、金屬、ボール紙、粘土ノ何レカヲ用ヒテ模型又ハ物品ヲ製作シ又ハ編物、織物、彫刻、燒繪ノ何レカヲナシ或ハ國旗、模様、花等ヲ八種以上彩色シテ描キ其名稱ヲ記スコト
- 六、下駄ノ鼻緒ヲスゲ、靴ヲ磨キ火ヲ焚キツケ、自分ノ衣服ヲ疊ミ得ルコト
- 七、自轉車又ハ驅ケ足ニテ適宜ノ距離ニ到達シ十五語以上ノ傳令ヲナシ得ルコト
- 八、籠一杯ニ紙屑又雜草ヲ拾ヒ集メルマテ道路掃除ヲナスコト
- 九、膝ノ屈伸及體ノ屈伸運動ヲ正シクナシ、適宜ノ高サニ厚ミヲ縱ニシテ置キタル長サ約四米ノ貫板又ハ丸太ノ上ヲ往復シ得ルコト
- 十、指ノ切傷、湯傷、火傷ノ手當法及傷ニ菌ノ如何ニ恐ルヘキカヲ知ルコト

十一、貯金五十錢以上ヲ有スルコト

十二、幼年健兒トシテ六ヶ月以上ノ勤務ヲナスコト

第八條 次長

各組ノ次長ハ二級以上ノ幼年健兒ニシテ隊長之ヲ任命シ組別章ノ上ニ幅一糎半ノ赤色山形章一線ヲ附着ス

第九條 組長

各組ノ組長ハ一級幼年健兒ニシテ隊長之レヲ任命シ、前條ニ準シ山形章二線ヲ附着ス

少年健兒

第十條 少年健兒ノ制服ヲ次ノ如ク定ム

健兒帽 平鍔形、茶革帶附ニテ頭部ヲ四角尖形ニ摘ミタルモノ

健兒服 上衣——シャツ形、兩ポケット及肩章附、地質適宜、カーキ、鼠、綠又ハ白色、但シ

毛糸編織袴ヲ用フルコトヲ得

ズボン、長サ膝ニ達セサル半ズボントシ上衣ト同色又ハ黒色、紺色、

襟掛 木綿又ハ毛織ノ方形巾又ハ三角巾ニシテ、同一隊ニハ同色ノモノヲ用フ

バンド 茶革製

靴下 無地長靴下

靴 黒又ハ茶革半靴若クハ編上靴

雜囊 適宜

團杖 長サ一・四米ヲ基準トシ身長ニ應シ適宜短縮スルコトヲ得、材料任意

團名章 長サ六釐幅一・五釐ノ白テープニ漢字、假名文字若クハ羅馬字ヲ以テ團名(上ニ冠シタ

ル特殊ノ名稱ノミ)ヲ黒字ニテ左横書ニシタルモノヲ右肩直下ニ縫着ク

班別章 長サ十二釐、幅二・五釐ノ色リボンヲ用ヒ左肩ニ垂下ス

等級章 左腕上部ニ縫着ク

年功章 綠座ニ銀星、左ポケットノ上縁ニ接シ右ヨリ横ニ並列シテ縫着ク

一年ヲ經ル毎ニ一個ヲ加ヘ三個ヲ金星一個ニ換フ

幼年健兒ノ年功章ハ少年健兒年功章ノ左ニ並列ス

笛紐及背囊 任意

外套 適宜

右以外ノモノヲ携フル必要アルトキハ之ヲ背囊ニ納メ外部ニ顯レサル如クスルヲ要ス

第十一條 見習少年健兒

假入團者ニシテ宣誓ヲナシ次ノ考査ニ合格シタル者ヲ見習少年健兒トシ制服ノ着用ヲ許シ、健兒

章ヲ佩用セシム

考査ハ團長之ヲ行フ

一、おきて、標語、敬禮法、健兒章ノ意義及健兒記號ニツイテ知ルコト

二、我國體ノ精華及ヒ我國旗ノ意義、由來、掲揚法ヲ知り、我國ト關係深キ外國ノ國旗六種以上

ヲ知ルコト

三、本結、一重接、引解ケ結、紡結、卷結、一ト結、二ト結、振結、天蠶結、挺結、縮結、垣根結、腰掛結、索端止メ、ノ中八種ノ結索法ト其用途ヲ知り、團杖ノ操法ト其利用法ヲ知ルコト
幼年健兒ヨリ上進シタルモノニアラサルトキハ上記ノ外二級及一級幼年健兒考査ト同一ノ能力アルヲ要ス

第十二條 二級少年健兒

見習少年健兒ニシテ次ノ考査ニ合格シタル者ハ二級少年健兒トシ二級章ヲ佩用セシム
考査ハ團長之ヲ行フ

- 一、見習トシテ一ヶ月以上ノ勤務ヲナスコト
- 二、三十分間ニ二軒ノ追跡ヲナシ得ルコト、或ハ二十四種ノ物品ヲ一分間觀察シタル後十六個以上記憶シ居ルコト
- 三、健兒歩調ニテ十五分間ニ二軒ヲ行クコト

四、地圖ノ讀方及ヒ十六方位ヲ知ルコト

五、小刀、斧ノ使用法ヲ知り衣服ノ小破損ヲ修理シ得ルコト

六、野外ニ於テマツチ二本以内ニテ火ヲ焚キ付ケ得ルコト、飯盒炊事ヲナシ味噌汁及ヒ簡單ナル副食物ヲ作り得ルコト

七、合計五夜以上野營ノ經驗ヲ有スルコト

野營用具ノ備ヘナキ團ニアリテハ晝夜ニ亘ル野外作業ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
體質夜間作業ニ適セサルモノハ晝間作業ノミニ止ムルコトヲ得

八、卒倒、創傷、打撲傷、火傷、湯傷、咬傷、整傷、鼻血、眼ノ塵、腹痛、中毒ノ場合ニ應スル第一看護法ヲ知り、止血法、繃帶法及ヒ人工呼吸法ヲ實施シ得ルコト、火災、震災、水災ノ

場合ニ於ル避難法ヲ知ルコト

九、片假名手旗信號又ハ「モールス」信號ヲ發受シ得ルコト

十、貯金五十錢以上ヲ有スルコト

第十三條 一級少年健兒

二級少年健兒ニシテ次ノ考查ニ合格シタル者ハ一級少年健兒トシ一級章ヲ佩用セシム
 考查ハ考查委員之ヲ行フ、考查委員アラサルトキハ團長之ヲ行フ

一、二級トシテ三ヶ月以上ノ勤務ヲナスコト

二、武道ノ心懸ケアルコト

三、百米以上泳キ得ルコト

但、醫師ノ證明ニヨリ體質上水泳ヲ有害ナリト認ムルトキハ救急、案内、信號、特技章ノ中
 ノ一種ヲ以テコレニ代フルコトヲ得

四、火災、溺水、地震、裂氷、感電、瓦斯漏洩、狂犬ニ對スル應急法及患者運搬法ヲ知ルコト

五、片假名手旗信號ヲ一分間ニ二十字又ハモールス信號ヲ一分間ニ十五字發受シ得ルコト

六、野菜料理三種以上、鳥、獸、魚肉料理各一種以上ヲ作り得ルコト

七、各種野營生活法ヲ知り通計十五夜以上ノ經驗ヲ有スルコト

野營用具ヲ有セサル團ニ在リテハ晝夜ニ亘ル野外作業又ハ、ハイキングヲ以テ之ニ代フルコ
 トヲ得

體質上夜間作業ニ適セサルモノハ晝間作業ノミニ止ムルコトヲ得

八、簡單ナル測圖見取圖ヲナシ、磁針ニヨラスシテ方位ヲ發見シ得ルコト

九、數、長サ、重サ、面積、體積ノ推測ヲナシ二割五分以上誤ラヌコト

十、木工又ハ金工、ニヨク或ル製作ヲナシ又ハ活動部ヲ有スル模型ヲ作ルコト

十一、植物、動物、礦物ノ何レカヲ十五種以上視察シ、其標本ヲ作ルコト

十二、貯金一圓以上ヲ有スルコト

十三、少クトモ一人ノ入團者ヲ紹介シ是ヲ見習少年健兒タラシムルコト

十四、單獨ニテ、或ハ一人ノ健兒ヲ伴ヒ、二日間ノ旅行ヲナシ、徒歩又ハ短艇ノ場合ニハ往復

十二軒、自轉車或ハ馬ノ場合ニハ往復二十五軒ヲ旅行シ、旅行記ヲ作ルコト

十三、十四ノ二項ノ場合ニ依リ一級健兒ニ進級シタル後ニ行フコトヲ得

第十四條 準健兒

一級健兒ニシテ左記特技章二十種中七種ヲ修得シタルモノヲ準健兒ト稱シ、準章ヲ佩用セシム
但、七種中ニハ救急章、野營章、信號章ノ三種ヲ含ムヘキモノトス

- | | |
|-------|-----|
| 救急章 | 野營章 |
| 水難救助章 | 工作章 |
| 消防章 | 水泳章 |
| 公衆衛生章 | 漕艇章 |
| 個人衛生章 | 測量章 |
| 體育章 | 測候章 |
| 信號章 | 電氣章 |
| 沿岸監視章 | 電信章 |
| 案内章 | 事務章 |

水先案内章

通譯章

第十五條 次長

各班ノ次長ハ班長ノ推薦ニヨリ、隊長之ヲ任命シ、幅二纏ノ白色テープヲ左ポケット裏ノ右側ニ縦ニ佩ハシム

第十六條 班長

各班ノ班長ハ名譽會議ノ議決又ハ班員ノ互選ヲ經テ隊長之ヲ任命シ、幅二纏ノ白テープヲ左ポケット裏ノ兩側ニ縦ニ佩ハシム

第十七條 隊附

六ヶ月以上班長タリシ一級健兒中ヨリ一隊一人ヲ限り、隊長之ヲ任命シ、幅二纏ノ白色テープ三條ヲ左ポケットニ着ケ、任命前ニ在リタル班ノ班別章ヲ用キシム

青年健兒

第十八條 制服

青年健兒ノ制服ハ左記ノ外少年健兒ノ制服ニ準ス
班別章及年功章ヲ用フルコトナシ

團杖ハ上端ニ又ヲナシタル指懸ケ杖ヲ用フルコトヲ得

第十九條 青年健兒ハ左ノ資格ヲ具備スヘキモノトス

一、少年健兒ヨリ上進スル場合ノ外、宣誓ヲナシ、三ヶ月ノ見習期間ヲ經過シ、一級少年健兒ノ
考查ト同一ノ經驗ヲ有スルコト

二、喫煙、飲酒過度ノ害、其他健康ノ保全増進ニ關スル常識ニ富ムコト

三、法制經濟就中憲法、地方行政、自治制度ノ大要ヲ知ルコト

四、教育學、心理學、生理學ノ外左記ノ何レカヲ研究スルコト

地文學、植物學、動物學、礦物學、地質學、物理學、化學、電氣學、機械學、外國語學

第二十條 次長

各班ノ次長ハ班長ノ推薦ニヨリ、隊長之ヲ任命ス

第二十一條 班長

各班ノ班長ハ名譽會議ノ議決又ハ班員ノ互選ヲ經テ隊長之ヲ任命ス

幹部員

第二十二條 幹部員ハ次ノ制服ヲ着用スルモノトス

幹部章 聯盟章ヲ上衣左襟ボタン穴ニ佩フ

帽 健兒帽

上衣 カーキ色、折襟、釦付キ、ポケット、共布バンド

上衣ノ下ニハ健兒服或ハワイシャツヲ着用シ、ソフトカラー、綠色長ネクタイヲ用フ
但、健兒指導ノ場合ニハ健兒章ヲ附シタル健兒服又ハ毛糸編襦袢ヲ着用スルヲ例トス

ズボン 半ズボン

膝ニ達セサルモノヲ正式トシ、膝ノ下部ニ於テ卸又ハビジヨウ止メニシタルモノヲ用フ
ルコトヲ得

靴 下 無地長靴下

附 則

服制及ヒ徽章等ニシテ本規則ニ據リ改定セラレタルモノニ對シテハ、現ニ使用中ノモノニ限り従前
ノ儘混用スルモ妨ケナシ

幼年健兒特技章程

幼年健兒特技章ハ次ノ四類十二種ニ分ツ

- 第一類 知能ニ關スルモノ 徽章ノ色ハ青
- 第二類 手技ニ關スルモノ 徽章ノ色ハ黃
- 第三類 奉仕ニ關スルモノ 徽章ノ色ハ赤
- 第四類 健康ニ關スルモノ 緋章ノ色ハ綠

第一類 知能ニ關スルモノ

約束一私ハコノ徽章ヲ得タ後モ全力ヲツクシテ、コレガ實習（又ハ蒐集、觀察）ヲ續ケテユキマス

第一種 信號章

一、片假名手旗信號ヲ發受シ得ルコト

二、各種信號暗號ヲ知ルコト

第二種 蒐集章

一、切手、繪葉書、或ハ植物、動物、地質學上ノ標本等ヲ蒐集シ、コレヲ組織的ニ奇麗ニ排列スルコト

二、或ハ切拔帳ヲ續ケテ作ルコト

第三種 觀察章

此徽章ヲ得ルタメニハ特別ナル約束ヲナス

約束——私ハ人々ニ對スルト同様ニ動植物ニモタメニナルコトヲイタシマス

一、野外ノ鳥類或ハ獸類五種以上ニツキソノ名稱、形態、習性等ヲ知ルコト

二、或ハ三十種以上ノ植物ニツキソノ名稱、形態、效用等ヲ知ルコト、ソノ中、有毒、食用植物ヲ多ク含ムコト

三、食用章ト有毒章トノ區別及ビ後者ヲ食シタル時ノ手當法ヲ知ルコト

都會地ノ健兒ハ、ソノ代リニ、八百屋ノ店頭ニドノ季節ニ、ドンナ果物ヤ野菜カアルカソノ價ノ大體ヲ知ルコト

又地上目標、磁針、各種記號ニヨリ追跡シ得ルコト

キムスゲーム、店ノゾキノ遊戯ニテ三割以上誤ラヌコト

第二類 手技ニ關スルモノ

約束——私ハ始メニ失敗シテモ、成功スルマデヤリ續ケマス

第四種 編物章

次ノ各項ノ中三種以上ヲナシ得ルコト

一、麥藁細工デ籠、眞田、其他ヲ編ムコト

二、竹、柳、アケビ、羊齒ニテ小物品ヲ作ルコト

三、經木細工ヲナスコト

- 四、網ヲ作り、或ハ修繕スルコト
- 五、葉細工ヲナスコト

第五種 美術章

- 一、風景、人物或ハ静物ノ寫生ヲナスコト
- 二、臨畫、記憶畫、想像畫等ニテ一出來事ヲ描クコト
(畫用紙ハツ切大以上ノモノ、用材ハ任意)
- 三、木、金、粘土、ボール紙等ニテ人物、鳥獸、家、村、舟等ノ模型ヲ作ルコト
(高サ或ハ長サ十五種以上ノモノ)

第六種 木工章

- 一、鋸、鉋、鑿、小刀等ノ取扱方ヲ知り小刀ノ研キ方ヲ知ルコト
- 二、木工ニテ任意ノ製作品三種以上ヲ作ルコト
コレニハ簡單ナル工作圖ヲ添フルコト

- 三、圖案ノ法則ヲ知り、自ラ圖案ヲ創作スルコト
- 四、次ノ木材ノ中四種ヲ見分ケ、且ツ其用途ヲ知ルコト
松、杉、檜、落葉松、栗、桐、櫻、梅、米松

第三類 奉仕ニ關スルモノ

約束——私ハ他人ノタメニ骨身ヲ惜シミマセン

第七種 救急章

- 一、止血法ヲ知ルコト
- 二、三角布ニテ手、頭ニ纏帶スルコト大提肘ヲナスコト
- 三、着物ニ火ノツイタ時ノ處置、火傷湯傷ノ手當法ヲ知ルコト
- 四、眼ノ塵、卒倒者ニ對スル手當法ヲ知ルコト

第八種 家事章

- 一、部屋ノ掃除雑巾掛ヲナスコト
- 二、火ノ焚キ方、或ハ瓦斯ノ使用法ヲ知ルコト
- 三、湯ヲワカシ、茶ノ出シ方ヲ知ルコト
- 四、小刀、庖丁ノ研ギ方、食器ノ洗ヒ方ヲ知ルコト

第九種 案内章

- 一、大都市ニ通スル道及ビ略々其里程ヲ知ルコト
附近ノ町村及ビソレヘノ里程ヲ知ルコト
- 二、道ヲ尋ネラレタトキ、ハツキリト丁寧ニ道ヲ教ヘ得ルコト
- 三、簡單ナ傳言ヲ正確ニナシ得ルコト
- 四、左ノ所在及ビ距離（隊本部或ハ自家ヨリ）ヲ知ルコト
警察署（駐在所）、消防署、醫師（病院）、藥屋、旅館、各種食糧品、日用品ノ販賣店

- 五、隊本部ヲ中心トシテ半徑一軒ノ地積内ニ於ケル近道ヲ知ルコト
- 六、大體、距離（里程）ノ推測ヲナシ得ルコト
- 七、附近ノ古蹟、名所ニツキ大體ノ知識ヲ有スルコト

第四類 健康ニ關スルモノ

約束——私ハ私ノ心ト身ノ健康ヲ保ツタメニ全力ヲツクシマス

第十種 體育章

左ノ中二種以上ノ標準ニ達スルコト

- | | | |
|--------|----------------|--------------|
| 一、徒歩競走 | 一分間 | 三〇〇米 |
| 二、跳躍 | （走）高跳
（走）幅跳 | 一・二米
三・五米 |
| 三、登攀 | （棒或綱） | 三米 |
| 四、蹴球投 | （投）ケ方
（方）方 | 一四米
一〇米 |

五、柔道、劍道、棒術、相撲ノ中一ツニツキ初步ノ心得アルコト

第十一種 水泳章

一、二十五米ノ水泳(泳法任意)ヲナスコト

二、一分間背浮ヲナスコト

三、背泳(手ヲ胸ニオイテ)ニテ十五米泳グコト

四、潜水(深サニテ二米、距離ニテ五米、時間デ五十秒間)ヲナシ得ルコト

第十二種 團體競技章

一、團體競技ノ一員タルコト

ベースボール、フットボール、バスケットボール等

二、一期六回以上ノ競技ニ参加スルコト

少年健兒特技章規程

特技章 目錄

(五十音順)

1、案内章	2、石工章	3、印刷章	4、園藝章
5 沿岸監視章	6 音楽章	7、革細工章	8、籠造章
9、家畜章	10、機關章	11、救急章	12、弓術章
13、騎乗章	14、漁撈章	15、金工章	16、繪畫章
17、建築章	18、劍道章	19、航空章	20、公衆衛生章
21、工作章	22、個人衛生章	23、裁縫章	24、柔道章
25、自轉車章	26、自動車章	27、事務章	28、射擊章
29、寫眞章	30、手技章	31、消防章	32、信號章
33、水泳章	34、水難救助章	35、炊事章	36、スキー章

37、相撲章	38、製茶章	39、製圖章	40、洗濯章
41、漕艇章	42、測量章	43、測候章	44、體育章
45、竹細工章	46、彫刻章	47、鳥類保護章	48、通譯章
49、電氣章	50、電信章	51、天文章	52、陶工章
53、農業章	54、博物章	55、杖術章	56、紡織章
57、水先案内章	58、無電章	59、木工章	60、野營章
61、養魚章	62、養禽章	63、養蠶章	64、養蜂章
65、喇叭章			

(以上六十五種)

六四

1、案内章

一、國本部ヲ中心トシテ附近ノ詳細ナル地理ヲ知ルコト
 其中消防署、警察署、病院、藥店、公設市場、市町村役場、學校、郵便局、電信局、電話局
 鐵道、電車道、乗合自動車道、食料品店、主ナル工場、自動車々庫、自轉車修理屋等ヲ含ム

(人口二萬以下ニ於テハ半徑三キロ人口二萬以上五十萬マデハ半徑二キロ、人口五十萬以ト
 ニテハ半徑一キロ)

二、附近四キロ以内ノ地ナラバ未知ノ人ヲ何處ヘデモ案内シ得ルコト
 附近ノ主ナル町村及ビ其地方ノ主ナル市ニ至ル大體ノ道順ヲ示シ得ルコト

三、附近ノ名所、舊跡ニツイテ大體ノ智識ヲ有スルコト

2、石工章

一、石材ヲ識別シソノ性質用途ヲ知ルコト

二、石工ノ用具ニ關スル智識ヲ有シ、鑿ノ燒入ヲナシ得ルコト

三、自然石ニテ高サ一メートル長サ二メートルノ石垣ヲ作ルコト、或ハ切石ニテ家屋ノ土臺ヲ作
 リマタ据付ヲナスコト

四、接合材料ニツイテノ智識及ビソノ用法ヲ知ルコト

五、石ニ簡單ナル彫刻ヲナシ得ルコト、(文字、繪、健兒暗號等)

六五

3、印刷章

- 一、活字、印刷機及ビ用紙ノ大キサ名稱ヲ知ルコト
- 二、文撰、植字、校正ヲナシ得ルコト
- 三、自ラ小サナ引札ヲ組ミコレヲ印刷シ得ルコト
- 四、紙型鉛版及ローラーノ製法ヲ知ルコト
- 五、手引、足踏、動力ノ印刷機械ヲ使用シ得ルコト

4、園藝章

- 一、少ナクトモ四坪以上ノ土地ヲ耕作シ、六種以上ノ野菜又ハ花卉、或ハ三種以上ノ果樹ヲ栽培セル經驗ヲ有スルコト
 - 二、蔬菜ニツイテハ促成、抑制、軟化栽培ヲナシ得ル種類ヲ知り、其栽培法ノ大要ヲ説明シ得ルコト
- 果樹ニツイテハ剪定整枝ノ方法及ビ効果ヲ知り實施ノ經驗ヲ有スルコト

- 三、果樹六種、蔬菜及花卉十種以上ノ名稱ヲ知ルコト
- 四、自己ノ栽培セル植物ニツイテノ年中行事ノ課程ニ習熟スルコト
- 五、肥料ニツイテノ知識ヲ有スルコト
- 六、自己ノ栽培セル植物ニ發生スル病虫害ノ驅除豫防法ヲ知ルコト

5、沿岸監視章

- 一、國本部所在地港灣沿岸十二杆（約六哩）ノ線ニ於ケル六杆（約三哩）以内ノ海岸線大體ノ狀況、五尋以内ノ淺瀬ノ線、航路附近危險ナル暗礁ノ所在ヲ知ルコト
- 二、右港灣又ハ沿岸ニ生スル潮流ノ方向、潮ノ干満ノ差、大潮、小潮時ニ於ケル水面ノ大體ノ狀況ヲ知ルコト
- 三、港灣沿岸ニテ土地不案内ノ漕走帆走汽走ノ小舟船舶又ハ水泳者等ニ危險ナル潮流並ニ難所ヲ知り是等ノ危險ニ陥ラントスル人又ハ船舶ニ注意又ハ信號ノ方法ヲ知ルコト
- 四、小舟又ハ吃水淺キ船ノ都合好キ上陸地點及風波ヲ避ケ得ル地點ヲ知ルコト

- 五、沿岸附近通航船舶ノ主ナル國旗、軍艦旗ヲ識別シ得ルコト
- 六、沿岸附近燈臺ノ主ナル種類、燈火到達距離、燈火ノ照光状態ヲ知ルコト
- 七、暴風警報、天氣豫報ヲ判別シ得ルコト
- 八、萬國信號ニ依ル船舶救難信號、火箭、號火信號等ヲ心得ルコト
- 九、難破又ハ衝突坐礁等ノ遭難船等發見ノ際、直ニ其ノ附近ニ在ル港務部港務局又ハ水難救濟所等ニ通報通信ノ手段ヲ知ルコト

6、音樂章

- 一、音符(本譜)ヲ讀解シ得ルコト
- 二、各自ノ好ム樂器ヲ正シク奏シ其樂器ノ特徴及ビ保存法ヲ知ルコト
- 三、發聲正シク獨唱、或ハ合唱ヲナシ得ルコト

7、革細工章

- 一、製革法ノ大略ヲ知り保存手入ヲ爲シ得ルコト

- 二、簡易ナル靴其他革製品ノ修繕ヲナシ得ルコト
- 三、革帶、革紐其他簡單ナル革製品二三種ヲ作り得ルコト

8、籠造章

- 一、籐、藪、藁、竹、アケビ蔓、藤蔓等ノ中一種以上ニツキノ原料ノ產地、加工法ヲ知ルコト
- 二、少ナクトモ二種以上ノ籠ヲ自ラ製作スルコト

9、家畜章

- 一、各家畜ノ習性及用途ヲ知ルコト
- 二、家畜少クモ一種(犬猫ヲ含マズ)一ケ年以上飼養セル經驗アルコト
- 三、經驗セル家畜ニツキ種類特徴ヲ二點以上舉ゲ得ルコト
- 四、家畜ノ罹リ易キ胃腸病ノ症狀並ニ之ニ對スル手當法ヲ知ルコト

10、機關章

- 一、電動機、蒸汽機關、內燃機關ノ原理ヲ知ルコト

- 二、簡單ナル製圖ヲ爲シ得ルコト
- 三、自ラ電氣モーター、又ハ蒸汽機關ノ簡易ナル模型ヲ作成シ提示スルコト
- 四、二馬力以上ノ電動機又ハ内燃機關、又ハ小型汽關取扱ノ經驗アルコト

11、救急章

- 一、下記ニ對スル處置法ヲ知ルコト
 卒倒者、溺死者、感電者、狂犬、毒蛇ニ咬マレタ者
- 二、頭、足、首、手ノ繃帶法ヲ知ルコト
- 三、身體各部ノ動脈及ビ靜脈出血ヲ止ムル法ヲ知ルコト
- 四、傷ニ細菌ノ入ラヌ様ガーゼヲ用フル法ヲ知ルコト
- 五、腕或ハ足ノ骨折ニ副木ヲ副フル法ヲ知ルコト
- 六、人工呼吸法ヲ知ルコト
- 七、患者運搬法ヲ心得居ルコト

12、弓術章

- 一、立射ノ型ヲ正シク爲シ得ルコト
- 二、坐射ノ型ヲ正シク爲シ得ルコト
- 三、二十間以上ノ距離ヨリ射テ次ノ成績ヲ收メ得ルコト
 一尺二寸、一尺、五寸ノ的ニ、四本ノ中二本の中

13、騎乗章

- 一、馬ニ乘リ各種速度ニテ走り且ツ低キ垣ヲ跳ビ越エ得ルコト
- 二、正シク鞍ヲ置キ轡ヲ付ケ、ソレヲハズシ騎乗後ノ馬ノ手入レヲナシ得ルコト
- 三、馬ニ水及餌ヲ給シ、毛ヲ梳リ、水浴セシメ得ルコト
- 四、水及餌ノ良否ヲ知り、毒草ヲ辨別シ得ルコト
- 五、不適當ノ鞍ノ害ヲ知り、鞍ズレ及跛行ノ主ナル原因及ビ救治法ヲ知ルコト
- 六、暴馬ヲシヅメル法ヲ知ルコト

14、漁撈章

七二

- 一、本邦沿岸ノ暖流及寒流ニ乗ジ來ル魚類中本邦人ニ愛用セラル、魚類ノ代表的ノモノ二種以上ノ名稱ヲ知ルコト
- 二、漁具中網、釣、叉、鉤及簡單ナル曳網ニテ魚類ヲ漁獲シ得ルコト
- 三、魚類貝殻ヲ乾シ、開キ、鹽漬トシ又ハ煮テ貯藏シ得ルコト
- 四、三ヶ月以上漁撈ノ實際經驗ヲ有スルコト遠洋、沿岸、河川何レノ經歷ニテモ可
- 五、漁網ヲ編ミ得ルコト
- 六、淡水産及鹹水産ノ魚類七種以上ヲ漁撈シ、其ノ名ヲ知ルコト
- 七、水産生物保護ト禁漁期ト自然養殖ノ關係ヲ知ルコト

15、金工章

- 一、鐵、鋼ヲ見分ケ得ルコト

- 二、簡單ナル鋼ノ焼入法ヲ知ルコト
- 三、鍛冶法ヲ知り鐵ヲ引延シ簡單ナル刃物ヲ調製シ得ルコト
- 四、銅、黃銅、薄鐵板等ニハンダ付ヲ爲スコト

16、繪畫章

- 一、獸鳥植物ヲ寫生或ハ記憶ニ依ツテ描クコト（一種二時間以内ニテ）
- 二、圓筒形直方體等ノ物體ヲ寫生シ陰影ヲ付ケルコト
- 三、風景人物ヲ水彩畫カ油畫ニテ描キ得ルコト
- 四、想像ニ依ツテ繪ヲカクコト

或ハ

- 一、色及ソノ配合ニツイテ知ルコト
- 二、何カノ意匠ヲ用ヒテ彩色シタ圖案ヲ作り其ノ用途ニ就テ述ベルコト
- 三、廣告繪（ポスター）ヲ畫クコト

七三

四、裝飾ノ仕方ヲ知ルコト

17、建築章

- 一、木造建築ニ要スル用具ノ使用法並ニ手入法ニ習熟スルコト
- 二、洋風建築ニ要スル用具及材料ノ名稱用途ヲ知り及其ノ使用法ノ概略ニ通ズルコト
- 三、建築設計圖ノ讀方ヲ知り之ニヨリ材料ノ見積リ方概要ヲ知ルコト
- 四、簡單ナル建物（小屋）ノ設計ヲナシ之ニ要スル材料及工賃ノ見積ヲ爲シ之ニヨリ建築ヲナシ得ルコト

七四

18、劍道章

- 一、日本刀各部ノ名稱、取扱方ヲ知ルコト
- 二、武士ノ魂トシテ日本刀ガ重用サレタ氣持ヲ了解スルコト
- 三、竹刀各部ノ名稱ヲ知り正シク裝備シ得ルコト
- 四、道具ヲ正シク着用シ且ツ結束シ得ルコト

- 五、對敵動作前後ノ禮式ヲ正シク實行シ得ルコト
- 六、氣、劍、體一致ノ動作ヲ完全ニナシ得ルコト

19、航空章

- 一、模型飛行機ヲ作り之ヲ二十五米突以上飛バシ得ルコト
- 二、實物飛行機各部ノ構造、飛行ノ理由ヲ知ルコト
- 三、飛行船及ビ輕氣球ノ構造ヲ知ルコト
- 四、飛行機ノ種類特徴ヲ知ルコト
- 五、發動機ノ構造及ビ運轉ノ理ヲ知ルコト
- 六、高度及ビ時間ノ記録ヲ知ルコト

20、公衆衛生章

- 一、次ノ病狀及ビ傳染経路ヲ知ルコト
肺結核、腸チブス、バラチブス、マラリア、猖紅熱、痘瘡、赤痢、コレラ、ベスト、チフテ

七五

リア、流行性腦脊髓膜炎、流行性感胃

- 二、傳染病患者が起ツタ家ニ對スル處置法ヲ知ルコト
- 三、蠅が如何ニ病毒ヲ傳染スルカヲ説明シ得ルコト
- 四、塵芥ノ處置法ヲ知ルコト
- 五、肉、牛乳、其他飲食物ノ取締ハ如何ニシテナサレ居ルカヲ知ルコト
- 六、野營ノ衛生的設備ノ計畫ヲ立テ得ルコト
- 七、何故學校生徒が身體検査ヲウケネバナラヌカヲ知ルコト
- 八、公衆衛生ニ關シ、當局ト協力シテ何等カノ奉仕ヲナシタル經驗ヲ有スルコト

21、工作章

- 一、約二米ノ輕便架橋ヲ設計スルコト
- 二、二米ニ四米ノ小屋ヲ建設シ得ルコト
- 三、直徑二十糎以下ノ樹木ヲ伐倒シ得ルコト

- 四、天然石ヲ以テ高サ約一米突ノ石垣ヲ築キ得ルコト
- 五、十種以上ノ結索法ヲ知ルコト

22、個人衛生章

- 一、齒及ビ目ニ就テノ注意ヲ知ルコト、而シテ自身ノ齒及ビ目ガソノ注意ニヨリ健康ヲ保チ居ルコト
- 二、自身ノ健康上ニ就テ實行シツ、アル注意事項ヲ舉ゲ、此等ノ法則ヲ實行シタ爲メニ六ヶ月間
仕事ヲ休マナカツタ證據ヲ有スルコト
- 三、溫浴及ビ冷浴ノ効果ニ就テ知ルコト
- 四、酒及ビ煙草ノ害ヲ知ルコト
- 五、旅行或ハ野營ノ際、健康上下ナ注意ヲ拂フベキカヲ知ルコト
- 六、健康上有益ナ遊技ヲ舉ゲ其價值ヲ述ブルコト
- 七、體育トシテ徒歩ノ效果ヲ知ルコト

23、裁縫章

- 一、運針法ヲ知り着用被服ノ修繕ヲナシ得ルコト
- 二、簡易ナル袋、褌袴、猿又等ノ裁斷法ヲ知り之ヲ作り得ルコト

24、柔道章

- 一、柔道着各部ノ名稱並ニ着用法ヲ知ルコト
- 二、柔道ガ他ノ運動ニ比シ精神的修練ノ多キ理由及氣持ヲ了解スルコト
- 三、敵對禮儀作法ヲ正シク實行シ得ルコト
- 四、柔道ノ型ヲ知ルコト
- 五、力ノ利用ト身體平均保持及反動ノ物理的關係ヲ説明スルコト
- 六、身體各部ノ主ナル筋肉骨格及血管ノ名稱、呼吸ノ生理等ヲ知ルコト
- 七、氣、業、體ノ一致的動作ヲ完全ニ行ヒ得ルコト

25、自轉車章

- 一、二十軒ヲ二時間ニ走り得ルコト
- 二、パンク其他簡單ナル故障ヲ修理シ得ルコト
- 三、自轉車ノ構造ヲ知リソノ分解組立ヲナシ得ルコト
- 四、地圖ヲヨミ、視察ノ報告、口述ノ傳令ヲモナシ得ルコト

26、自動車章

- 一、ガソリン機關ノ原理及普通自動車各部ノ構造ト其機能ニツキ大要ヲ知ルコト
- 二、或一型式ノ自動車ニツキソノ運轉法ヲ心得ルコト
- 三、空氣入タイヤノ着脱、パンク修理、及エンジンノ手入ヲ爲シ得ルコト
- 四、自動自轉車ニ乗り得ルコト
- 五、自動車取締規則ノ要領ヲ知ルコト

27、事務章

- 一、單式又ハ複式簿記法ニヨル記帳ヲナシ得ルコト

- 二、口述セラレタル事柄ヲ記憶ニヨリ文ニ綴リ得ルコト
- 三、私用及ビ事務用ノ通信ヲ認メ得ルコト
- 四、通信機關（郵便、電信、電話等）利用ニ熟セルコト
- 五、珠算ニ習熟セルコト
- 六、所屬團ノ事務ニ二ヶ月以上携ハリタル經驗ヲ有スルコト
- 七、左ノ一項以上ニ習熟セルコト
 - 1、速記
 - 2、タイプライターノ使用
 - 3、謄寫版ノ使用
 - 4、金銭登録器ノ使用

28、射撃章

- 一、使用銃ノ性能、及各部ノ名稱並ニ手入法ヲ知ルコト

二、射撃術ノ大體ヲ心得其實習ヲナセシコト（學說ヨリモ射撃規則、射撃規律ノ如キモノヲ嚴守スルコト大切ナリ）

三、小銃取扱法、射撃ノ諸規則ヲ心得ルコト

四、左記ノ距離ニテ隨意姿勢ニテ左ノ成績ニ達スルコト

使用銃標的等大體陸軍歩兵射撃ニ據ルモ、此銃ナクバ他ノ制式銃ニテ差支ナシ

二〇〇米 十圓的 二十點以上

三〇〇米 圓頭的 十點以上

五、距離目測ニテ三割以上ノ誤測ナキコト（近距離六百米以内）

29、寫眞章

一、撮影、現像、焼付ヲナシ得ルコト、而シテ十二枚以上ノ印畫ヲ作製スルコト
人物、風景、瞬間撮影（動作）各三枚宛

二、現像液ノ調合、補力、減力、引伸ヲナシ得ルコト

三、レンズ及ビスクリーンノ働キ、暗箱ノ構造、乾板ニ光ノ及ボス變化等ニツイテ物理的、化學的原理ヲ知ルコト

30、手技章

- 一、小刀、鑿等ノ刃付磨キ方ヲ知ルコト
- 二、簡單ナル彫刻ヲナシ又ハ印章ヲ刻シ得ルコト
- 三、簡單ナル製作物ノ模型圖ヲ畫キ得ルコト

31、消防章

- 一、手押ポンプ及ガソリンポンプ、或ハ蒸汽ポンプヲ取扱ヒ得ル事
- 二、救命袋、避難棧、綱、跳降受及ビ各種消火器ノ用法ヲ知ル事
- 三、火災中ノ家屋ニ潛入スル方法、其ノ中ヨリ負傷者、病者等ヲ搬出スル方法ヲ知ルコト
- 四、火災時ニ於ケル家畜ノ取扱法、家具ノ取出方ヲ知ルコト
- 五、延焼ヲ防グ法ヲ知ル事

六、藥品、油類等ノ消火方法ヲ知ル事

七、火災豫防法ノ一般ヲ知ルコト

32、信號章

一、片假名手旗信號ヲ一分間二十字、モールス信號符字ヲ一分間十五字ノ速度ニテ發信又ハ受信シ得ルコト

二、發火及音響ニ依リモールス信號ヲナシ得ルコト

三、少年團規定ノ暗號記號ヲ各種ノ方法ヲ以テ自由ニナシ得ルコト

四、船舶ノ舷燈、曳船信號燈ヲ知ルコト

五、汽車ノ發着停止ノ信號ヲ知ルコト

33、水泳章

一、平泳ニテ二百米、背泳ニテ五十米突テ泳ギ得ルコト

二、着服ノ儘(少クトモシャツ、ズボン、靴下着用)五十米突テ泳ギ得ルコト

- 又水中ニテ脱衣又ハ靴下ヲ除去シ得ルコト
- 三、素潜ニテ三米以上ノ深サヨリ物ヲ拾ヒ得ルコト
 - 四、平體、横體又立體泳法中ノ一種ニ付キ説明シ得ルコト
 - 五、初心者又ハ溺者ニ對スル處置ヲ知ルコト
 - 六、溺死者發見ノ際之ニ對スル處置ヲ知ルコト

34、水難救助章

- 一、溺者ニ對シ救命浮標、救命袋、救命綱ノ投ゲ方ヲ知ルコト
- 二、水中ニ潜リテ溺者ヲ助ケ出ス法ヲ知ルコト
- 三、溺者ヲ抱エテ五間以上泳ギ得ルコト
- 四、溺者ノ援ケ方、船ノ乗り方ヲ知ルコト
- 五、溺者ノ蘇生法、體温、血行恢復、元氣ヲ附ケルコトヲ知ルコト
- 六、難破船等ヨリ救難火箭飛揚ヲ爲スコト

35、炊事章

- 一、各種ノ道具ニテ或ハ道具ナシテ飯ヲ炊キ得ルコト
- 二、下記食品ヲ作り得ルコト
 - 五目鮓、海苔卷、シチウ、ライスカレー、牛、豚、魚、鳥肉料理、茶、コーヒー、コ、ア
 - 甘酒、葛蕨、汁粉、雜煮等
- 三、食物ノ榮養素、消化ノ良否、配合調理ニヨル消化ノ難易ニ就テ知ルコト
- 四、野營ニ於ケル一班一週間ノ獻立表ヲ作ルコト
- 五、水ノ濾過法、滅菌法ヲ知ルコト
- 六、食物ノ保存法ヲ知ルコト

36、スキー章

- 一、使用ノ目的ニ從ヒスキーノ形狀ノ適否ヲ知ルコト及壞國式、諸國式ノ長所短所ヲ答へ得ルコト

- 二、平地及傾斜面ニ於ケル停止方向變換ヲ正シクナシ得ルコト
- 三、正シキ平地行進及斜面登行ノ方法三種ヲ行ヒ得ルコト
- 四、凸凹少ク雪質良キ十五度内外ノ斜面ニ於テ主トシテ直滑降ヲナシ三百米以内ニ倒レザルコト
但シ地形ノ如何ニヨリ直滑降ノ中途數回ノ停止又ハ左右斜滑降又ハ弧形滑走及少許ノ平地行進ヲ混ズルコトヲ得、三十度以上ノ斜面ニ於テ左右斜滑降ヲナシ得ルコト
- 五、二十度以上ノ斜面ニテ制動滑降ヲナシ得ルコト
- 六、クリスチャニア、テレマーク又ハ墺國式單杖停止法ヲナシ得ルコト
- 七、雪ノ質ヲ五種以上説明シ得ルコト

37、相撲章

- 一、土俵ニ上ル儀式ノ心得アルコト
 - 1、塵ヲ切り手ヲ二ツ拍ツコト
 - 2、四肢三ツ踏ムコト

- 3、足ヲ四ツ踏ムコト
- 二、技術ノ心得アルコト

- 1、腰投ゲ
- 2、上手投ゲ
- 3、下手投ゲ
- 4、首投ゲ
- 5、ツ、バリ(オシ)
- 6、足カケ(カハズ)

38、製茶章

- 一、茶ノ栽培法ヲ知ルコト
- 二、生葉ノ蒸シ方ヲ心得居ルコト
- 三、焙爐ニテ茶ヲ製シ得ルコト

- 四、製茶器械ノ大要及綠茶、紅茶ノ製造法ヲ知ルコト
- 五、製茶貯藏法ノ心得アルコト
- 六、綠茶、紅茶ノ品質ヲ鑑別シ得ルコト

39、製圖章

- 一、製圖ニ要スル器具及用紙ノ名稱ト使用法ヲ知ルコト
- 二、幾何畫法、透視畫法、投影畫法ヲ知ルコト
- 三、青寫眞法ヲ知ルコト
- 四、各種設計圖地圖ノ讀方ニ習熟シ之ヲ與ヘラレタル尺度ニ擴大若ハ縮小シ得ルコト
- 五、成ルベク複雑ナル機械ニ就イテ見取りヲナス、之ガ製圖ヲナシ得ルコト或ハ自宅建築物ノ製圖ヲナスカ、自分ノ測量シタル土地ヲ製圖シ得ルカ又ハ簡單ナル土木工事ノ設計ヲナシ得ルコト

40、洗濯章

- 一、木綿物、絹物、毛織物ヲ洗ヒ之ヲ仕上げ得ルコト
- 二、アライ張、ユノシ、及火熨斗ノ使用法ヲ知り之ヲ實行シ得ルコト
- 三、糊及フノリノ作り方、汚點拔及着物ノ解方ヲ知ルコト
- 四、揮發油、洗濯曹達、石鹼、漂白粉ノ性質用途ヲ知ルコト或ハ右一、二、三ヲ次ノモノニ代ヘテモヨシ

- 1、濕式及乾式ノ洗濯法ヲ知り、木綿物（色物ヲ含ム）絹物、毛織物ヲ洗濯シ仕上げ得ルコト
- 2、健兒服、ワイシャツ、及カラーヲ洗濯シ、糊付ケシ火熨斗ヲ掛ケ得ルコト
- 3、洗濯ノ手順、汚點拔及電氣アイロンノ使用法ヲ知ルコト

41、漕艇章

- 一、槳、櫓、爪竿ノ取扱方及漕ギ方ヲ知ルコト
- 二、展帆、絞帆、縮帆及脚踏法ヲ知ルコト

- 三、他艦船、陸岸、棧橋、埠頭及浮標等ニ自由ニ乘艇ヲ横付シ又ハ離艇シ得ルコト
- 四、羅針盤方位ヲ讀ミ得ルコト
- 五、曳船ト被曳船ノ方法ヲ知ルコト
- 六、船舶ノ外形楕形ノ種類形状ニテ何型式ノ船又ハ帆船ナルヤ判斷區別シ得ルコト
- 七、左記結索法中五種ノ結ビ方ヲ知ルコト
 - 一結、二結、卷結、紡結、本結、天蠶結等
- 八、漁網ヲ適切ニ投ゲ得ルコト
- 九、航路標識衝突防法ノ大要ヲ知ルコト

42、測量章

- 一、測量用器械ノ名稱ト使用法及普通ノ測量上ノ記號、術語ヲ知ルコト
- 二、居住地附近ノ道路一基米突ノ長サノ間兩側各百米突宛ヲ概測シテ二千分ノ一ノ地圖ヲ作ルコト
- 三、樹木ノ高サ及川ヲ渡ラズシテ其ノ幅ヲ測量スルコト

43、測候章

- 一、バロメーター、風速計、寒暖計、濕度計ノ原理及見方ヲ知ルコト
- 二、氣壓、氣溫、氣流、飽和ノ關係ヲ説明シ得ルコト
- 三、雲ノ種類、ハロ、暈ヲ識別シ風速ヲ推測シ得ルコト
- 四、天氣圖ヲ讀ミ、之ニヨリテ翌日ノ天候ヲ豫報シ及ビ暴風警報ヲ發シ得ルコト
- 五、氣象揭示ニ用フル記號ノ一般ヲ知ルコト
- 六、少クモ一ヶ月以上氣象日記ヲ記スルコト

44、體育章

- 一、懸垂運動ノ正シキ方法ニヨリ鐵棒上ニ上リ得ルコト
- 二、逆立ニテ二十秒間同一場所ニ立チ得ルカ又ハ三米以上前進シ得ルコト
- 三、下記競技中二種目ニツキ標準レコードニ達シ得ルコト

種目

レコード

九二

一〇〇米	一五秒
四〇〇米	一分一六秒 $\frac{3}{5}$
一五〇〇米	五分五〇秒
走幅跳	四米三五
走高跳	一米二二
ホツプステツ プジャンプ	九米三五
砲丸投	九米(八封度)

45、竹細工章

- 一、竹ノ種類習性ヲ知り、其特徴及用途ヲ知ルコト
- 二、竹細工器具ノ使用法ヲ知ルコト
- 三、小鳥籠、虫籠、箆、其他簡單ナル竹細工品ヲ製作シ得ルコト

46、彫刻章

- 一、鉛筆、木炭ニテ圓筒形、多面體ヲ寫生シ影ヲツケルコト
- 二、粘土カ石膏カ石カ木カデ動物、靜物ヲモデルニシテ模造スルコト
- 三、何カ物體ニ模シテ鑄造スルコト

47、鳥類保護章

- 一、其地方ニ於ケル鳥類十種以上ノ名稱、形態、習性等ヲ知ルコト
- 二、鳥類保護ニ關スル法律ニツイテ知ルコト
- 三、巢箱ヲ自ラ製作シ、ソノ設置ニ關スル智識ヲ有シソレニヨツテ鳥類ヲ保護シタ經驗ヲ有スルコト
- 四、自ラ小鳥ヲ飼養シタ經驗ヲ有スルコト

48、通譯章

- 一、エスペラント又ハ任意ノ外國語ニテ會話ヲナシ普通ノ用ヲ辯ジ得ルコト

九三

- 二、エスベラント又ハ任意ノ外國語ニテ與ヘラレタル文題ニツキ簡單ナル文章ヲ作り得ルコト
- 三、與ヘラレタル文章ノ翻譯ヲナシ得ルコト
- 四、所屬隊ノ現況ヲエスベラント又ハ任意ノ外國語ニテ口述説明シ得ルコト

49、電氣章

- 一、磁石ノ性能ヲ知ルコト
- 二、電磁石ノ性能ヲ知り之ヲ應用セル簡單ナル電氣裝置器具（電鈴、電信受信器、自動遮斷器等）ヲ製作シ得ルコト
- 三、直流交流ノ理論ヲ知り其ノ特質ヲ知ルコト
- 四、電池及電流ノ直列及並列ノ接續法ヲ知り、且ツ自ラ電池ノ製作ヲナシ得ルコト
- 五、電流、電壓、抵抗、電力ハ如何ナルモノカヲ知り其ノ相互關係ノ法則ヲ知ルコト
- 六、電氣測定器（電流計、電壓計、電力計）ノ使用法ヲ知ルコト
- 七、簡單ナル電氣通信器ノ圖解ヲナシ得ルコト

- 八、簡單ナル配電板、起動抵抗加減器ノ操作ヲナシ得且ツ原理ヲ説明シ小型電動器ノ運轉ヲナシ得ルコト
- 九、電線ノ接續法及安全溶解線ノ效用並ニ之ガ取扱上ノ注意ヲ熟知スルコト

- 一〇、簡單ナル内線作業ヲナシ點燈設備ヲナシ得ルコト

- 一一、電氣工事規程ニ通ズルコト

50、電信章

- 一、電信電話機ノ構造大意ヲ知り且ツ其修繕ヲ爲シ得ルコト
- 二、モールス符字記號及音響ニ依リ一分間三十字以上ノ速度ヲ以テ送受信シ得ルコト
- 三、電信電話ノ交換裝置ノ説明ヲ爲シ交換臺ニテ交換シ得ルコト
- 四、無線電信ノ原理ノ大要ヲ知り且ツ波長ノ關係ヲ知ルコト

51、天文章

- 一、太陽系ノ組織ヲ知ルコト

- 二、地球其他ノ惑星及衛星ノ運動ノ大體ト其一般智識ヲ有スルコト
- 三、日蝕、月蝕、變光星、太陽黑點及潮ノ干満等ニ就テ知ルコト
- 四、十以上ノ星座、北極星ノ所在及其發見法ヲ知ルコト
- 五、恒星、天ノ河ノ性質ヲ知ルコト
- 六、本邦現用曆ノ中間年ヲ設ケタル理由ヲ知ルコト

52、陶工 章

- 一、陶器ト磁器トヲ識別シ、ソノ主ナル産地ヲ知ルコト
- 二、陶器及磁器ノ製法ヲ知ルコト
- 三、塗料ノ種類及燒度數ヲ知り、印刷ト、描キタルモノトヲ識別シ得ルコト
- 四、素燒或ハ樂燒ヲナシタル經驗ヲ有スルコト
- 五、陶器、磁器ノ保存法及荷造法ヲ知ルコト

53、農 業 章

- 一、田畑ヲ耕シ米麥ノ栽培ヲナシ、間作ヲナシ得ル所ニテハ間作ヲナシ、灌溉排水ノ方法等ヲ實
驗ニヨリ知ルコト
- 二、農耕機械器具ノ一般的智識ヲ有スルコト
- 三、堆肥ノ作り方ヲ知り、動植物性肥料及化學肥料ノ識別ヲナシ其ノ效用ヲ知ルコト
- 四、肥料ノ三要素ヲ知り各要素ノ植物ニ及ボス影響ヲ理解スルコト
- 五、米麥ニ付各季節ノ農事課程ニ習熟スルコト
- 六、米麥ニ發セル病蟲害驅除豫防法ヲ知ルコト

54、博 物 章

- 一、次ノ各項ノ一ニツキ研究シ、スケツチ、寫眞等ヲ挿入シタ記録ヲ作ルコト
 - 1、一植物ノ發芽、成長、開花、結實
 - 2、卵カラ親鳥ニナルマデ
 - 3、昆蟲、蜘蛛、蛙其他ノ小動物ノ生活

4、月々ニ花サク主ナル野生植物

右ノ代リニ次ノ事項ヲナスモヨシ

地殻ノ發達ニツキ一般的智識ヲ有シ、岩石、化石、鑛物各二十種ヲ識別シ得ルコト

二、植物標本百種、或ハ動物標本五十種、或ハ鑛物標本五十種ヲ蒐集シコレヲ整理保存スルコト

55、杖術章

一、杖ノ取扱法、敬禮法、懸壁ヲ知ルコト

二、基本動作(構方、振方、打方、突方、防ぎ方)ヲナシ得ルコト

三、應用動作ヲ知ルコト

四、無杖ノ動作ヲ知ルコト

56、紡織章

一、毛絹木綿織ノ區別並ニ用途及其ノ性質ヲ知ルコト

二、各原料ノ產地ヲ知り紡織ノ過程ヲ説明シ得ルコト

三、自ラ紡ぎ得又雜草、葉等ヲ以テ敷葉産ヲ織リ得ルコト

57、水先案内章

一、附近港灣及其ノ附近海面ノ水路ヲ知ルコト

二、航路浮標、淺瀬浮標、陸標等出入港ニ必要ノモノヲ知ルコト

三、萬國船舶信號、航路規則ノ大要、暴風警報信號等ノ大要ヲ知ルコト

四、方位測定法ニ依ツテ地物本船ノ位置ヲ知ルコト

五、航海日誌記載項目(風向、風力、潮流、天候、晴雨、寒暖溫度等)ノ記號ヲ知ルコト

58、無電章

一、電氣章ヲ有スルコト

二、無線電信、電話ニ就キ一般的知識ヲ有スルコト

三、モールス符合ニテ一分間十語以上發受シ得ルコト

四、自ラ受信裝置ヲ製作スルコト

59、木工章

- 一、木材十種以上ヲ識別シ其ノ特質ト一般用途ヲ知ルコト
- 二、鋸、鑿、鉋、小刀ノ用法ニ熟シ之ガ手入法ヲ知ルコト
- 三、手挽製材法ヲ知ルコト
- 四、木材ノ接合法ヲ知ルコト
- 五、簡單ナル木工日用品ヲ製作スルコト
- 六、塗料(ニス漆エナメル)着色焼付ノ原理ヲ知り簡單ナル塗工、着色法、焼付ヲナシ得ルコト

60、野營章

- 一、天幕生活ノ經驗二十夜以上ヲ有スルコト
- 二、天幕ヲ張ルニ就テ次ノ事項ヲ知ルコト
場所ノ選定、便所ノ作り方、汚物塵芥ノ處分法、風雨ニ對スル處置、防寒防濕法

- 三、各種天幕ノ作り方トソノ特徴用途、張方、仕舞方ヲ知ルコト
- 四、飯盒炊事及簡單ナル副食物ノ調理ヲナシ得ルコト
- 五、筏及小屋掛ノ造り方ヲ知ルコト

61、養魚章

- 一、二種以上ノ魚類(又ハ貝類)ヲ養殖セル實地經驗ヲ有スルコト
- 二、ソノ魚貝ニツキ、生態、分布状態ヲ知ルコト
或ル種ノ魚類ニアリテハ、ソノ人工孵卵法、幼魚育成方法ヲ知ルヲ要ス
- 三、ソノ魚貝ノ漁撈法ヲ知ルコト
- 四、ソノ魚貝ノ利用法ヲ成ルベク詳シク知ルコト

62、養禽章

- 一、孵化法及孵卵器ノ使用法ヲ知ルコト
- 二、衛生ニ適スル家禽舎、鳥籠、運動場ヲ作り得ルコト

- 三、育雛、給餌、屠殺ノ實驗ヲ有スルコト
- 四、鳥、及種卵、食卵ヲ市場ニ出ス爲ノ荷造ヲ爲シ得ルコト
- 五、鶏ノ種類八種其用種(食用、卵用、愛玩用等ノ)及特徴ヲ知ルコト
- 六、養禽又ハ家鴨又ハ七面鳥等ノ飼養法ノ大要ヲ知ルコト

63、養 蠶 章

- 一、掃立ヨリ收購マデノ經驗ニ回以上ヲ有スルコト
- 二、一ケ年間ニワタル桑園ノ手入及施肥ノ智識ヲ有スルコト
- 三、其ノ地方ニ於ケル蠶ナル蠶病三種以上ヲ識別シ其ノ處理法ヲ知ルコト
- 四、簇ノ製作ヲナシ得ルコト
- 五、蠶室、蠶具ノ消毒法、及ビ政府デ行ツテ居ル蠶病豫防法ノ大略ヲ知ルコト
- 六、簡單ナル殺蛹法ヲ知り生繭運搬ニツイテノ一般の知識ヲ有スルコト
- 七、催青法、蠶種冷蔵法ノ大意ヲ知ルコト

- 八、蠶種製造ニ關シテ簡單ニ其ノ順序方法ヲ記述シ得ルコト
- 九、原蠶種五、交配種二以上ニツイテノ特徴及ビ名稱ヲ知ルコト

64、養 蜂 章

- 一、蜜蜂ノ雌、雄、働蜂ヲ識別シ得ルコト
- 二、蜂群管理法ノ概要ヲ知ルコト
 - イ、王臺ノ制限
 - ロ、人工分封法
 - ハ、自然分封ノ補助法
 - ニ、害虫、豫防驅除(巢虫、熊蜂等)
 - ホ、寒、暑、兩期ノ手入法
- 三、巢箱ノ製作ヲナシ得ルコト
- 四、採蜜、採蠟法ヲ知ルコト

一、次ノ吹奏ヲナシ得ルコト

起床、集合、解散、注意、食事、休憩、消燈、進軍、君ガ代、國ノ鎮メ、皇御國、海行カ
バ、少年團號音

海洋指導者實修所規程

第一條 海洋指導者實修所ハ少年團教育中海洋健兒訓練ニ關スル諸般ノ攻究ヲ遂ケ、實修者ヲシテ、本教育法ノ眞髓ヲ體得セシムルヲ以テ目的トス

第二條 本實習所ハ本聯盟所屬練習船義勇和爾丸ハ必要ニ應シ適當ト認ムル地區又ハ船内ニ開設シ船名又ハ地名ヲ冠シ「、、、海洋實修所」ト呼稱ス

第三條 本實習所ノ教程ハ各實修所トモ同一程度トシ理論、實地ノ兩教程及實際指導ノ三階程トス

第四條 本實修所ニ左ノ職員ヲ置ク

長 一名 實修所全般ヲ總轄ス

副長 一名 所長ヲ補佐シ所務教務ヲ監督ス

所員 若干名 所長及副長ノ命ヲ受ケ所務教務ヲ分擔ス

第五條 實修者ハ年齡滿十八歲以上タルヲ本體トシ左ノ資格ヲ有スル希望者申ヨリ入所ヲ許ス

一、本部役員、職員、審議員、評議員、地方委員

二、地方聯盟役員、職員

三、加盟團指導者

四、前三者ノ推薦ヲ受ケ詮衡ヲ經タル者

但シ未加盟者ニアリテハ入所ト共ニ加盟スヘキ意志アルコトヲ表明シタルモノトス

志望者ハ履歷書推薦書ヲ添ヘテ其旨實修所長ニ申出ツルモノトス

第六條 實修ノ期間其他ノ要項ハ其都度之ヲ告示ス

第七條 實修者ハ各自ノ食費其他ノ實費ヲ負擔スルモノトス

第八條 本實修所ニ於テ理論、實地ノ兩教程ヲ修了シ詮衡ニ合格シタル者ニハ修了證ヲ與フ

修了者中更ニ實際指導經營ノ實績優良ナルモノニハ特修證ヲ與フ

修了者ハ其希望ニ依リ更ニ一組織ヲ爲シ研鑽修養ニ便ナラシム

附 則

一、海洋指導者クラントスル者、並ニ海洋指導者實修所修了者ハ健兒聯盟指導者公認規程ニ準據

シ本實修所長之ヲ審査シ、海洋指導者公認候補名簿ヲ調製シ之ヲ理事會ニ提出シ其審議ヲ受ク

二、本實修所長ハ理事會ニテ公認サレタル海洋指導者ニハ特定ノ徽章ヲ授與シ、聯盟公報ヲ以テ

之ヲ告示ス

海洋健兒種別等級規則

一〇八

海洋少年健兒

第十三條 海洋少年健兒ハ之ヲ分チテ左ノ三種トナス

- 一、海洋見習健兒
- 二、海洋二級健兒
- 三、海洋一級健兒

第十四條 假入團ニシテ少ナクトモ一ヶ月ヲ經過シ次ノ考査ニ合格シタル者ハ海洋見習健兒トシ制服制帽ノ着用及ヒ海洋健兒章ノ佩用ヲ許ス

- 一、宣誓、おきて、標語、敬禮法、徽章ニ就テ知ルコト
- 二、兩陛下 皇太子同妃殿下ノ御名ヲ知ルコト

三、我國體ノ精華及ヒ我國旗ノ意味、由來、掲揚法ヲ知り我國ト關係深キ外國ノ國旗六種以上ヲ知ルコト

四、結索法六種以上ヲ知ルコト（本結、一重結、卷結、一ト結、二タ結、天蠶結）

五、圓杖操法ヲ知ルコト

六、羅針方位ヲ知ルコト

七、短艇ノ種類ト棹、櫓、爪竿各部ノ名稱ヲ知ルコト

第十五條 海洋見習健兒ニシテ第二號ノ外左ノ各號中半數以上ノ考査ニ合格シ且ツ團長ニ於テ適當ト認メタルモノハ海洋二級健兒トス

合格者ニハ海洋二級健兒章ノ佩用ヲ許ス

- 一、見習トシテ二ヶ月以上ノ勤務ヲ爲スコト
- 二、百米以上ヲ泳キ得ルコト
- 三、羅針盤ノ種類ト使用法、海圖ノ見方ヲ知ルコト

一〇九

- 四、掌革、帆縫針、斧、鋸、「ベンチ」ノ使用法ヲ知り帆布、被服ノ小破損ヲ修理シ得ルコト
- 五、臨海原野ニ於テ飯盒炊事ヲナシ味噌汁及簡單ナル副食物ヲ作り得ルコト
- 六、五日以上野營ノ經驗ヲ有スルコト
- 七、左ノ救急法ヲ知ルコト
 - 溺者、卒倒、創傷、打撲傷、火湯傷、咬傷、螫傷、凍傷、鼻血、眼塵、腹痛、中毒、止血法、患者運搬法
- 八、艦船ノ種類ト其性能用途ヲ知ルコト
- 九、手旗信號及舷燈曳船信號等ノ船用燈火ノ概要ヲ知ルコト
- 一〇、燈臺ノ種類ト燈火ノ性質種類ノ大略ヲ知ルコト
 - 一一、潮流、潮候時ノ概要
 - 一二、橈、棹、爪竿ノ取扱法ト其操法
 - 一三、航路標識、衝突豫防法ノ大要

- 一四、救命浮標、救命袋、救命網ノ投方
- 一五、貯金五十錢以上ヲ有スルコト

第十六條 海洋二級健兒ニシテ次ノ各號中第一號第四號ノ外半數以上ノ考査ニ合格シ且ツ團長ニ於

テ適當ト認メタルモノハ海洋一級健兒トス

合格者ニハ海洋一級健兒章ノ佩用ヲ許ス

- 一、二級トシテ一年以上勤務ヲナスコト
- 二、航海又ハ船艇内及野營生活十回以上ノ經驗アルコト
- 三、杖術、劍道、柔道、相撲等ノ一ヲ心得居ルコト
- 四、二〇〇米以上泳キ得ルコト

- 拔手 一〇米
- クロール 一〇米
- 背泳 一〇米

「シャツ」「ズボン」並ニ足袋着用ノ體二〇米ヲ泳グコト

立泳ヲスルコト

五、左ノ救急、救難處置ヲ知ルコト

溺者、船内火災、陸上火災、地震、洪水、難波船、瓦斯電氣漏洩、人工呼吸法

六、「モールス」信號、音響信號、發火信號、國際旗旋信號ノ大要、旗旋信號ノ掲揚法ヲ知ルコト

ト

七、食料品ニ付キ榮養上ノ價值ノ大體ヲ知り野菜料理三種以上鳥獸魚貝料理各一個以上ヲ作り得ルコト

八、海圖、地圖ノ讀方

九、測鉛法ノ實習、水ノ淺深略測法

一〇、方位交叉法ニテ船位又ハ島嶼等ノ位置ヲ知ルコト

一一、長サ、重サ、深サ又ハ面積、體積ノ堆測ヲナシ三割以上ノ誤差ヲ生セサルコト

- 一二、木工、金工、鍛工、彫刻繪畫、寫真中ヨリ自己ノ創作ヲ發表スルコト
- 一三、海草類五種、魚類(淡水、鹹水共)十五種以上ヲ觀察シ其標本ヲ作ルコト
- 一四、五ツ以上ノ星座名稱、北極星所在發見法ヲ知ルコト
- 一五、貯金壺圖以上ヲ有スルコト

海洋青年健兒

第十七條 海洋青年健兒ハ當分ノ間左ノ二等級ニ分ツ

一、海洋青年健兒

二、海洋一級健兒

第十八條 年齡滿十七歲以上ニシテ左記項目中第一、第二ヲ含ミ八項以上ニ合格シタルモノヲ海洋青年健兒トス

合格者ニハ海洋青年健兒章ノ佩用ヲ許ス

- 一、海洋二級健兒以上ニ海洋ニ關スル技能、知識ヲ有シ誓ヲナシ健兒精神確固タルコト
- 二、三〇〇米以上泳ギ得ルコト
- イ、拔手 二〇米
- ロ、「シヤツ」「ズボン」足袋着用ノ儘 二〇米
- ハ、立泳 一〇秒間
- ニ、水面下二米ノ潜水ヲナシ水中ニアル一〇斤以上ノ重量物ヲ持上グルコト
- ホ、曳泳一〇米以上ヲ爲シ得ルコト(自分ト同重量ノ曳泳)
- 三、滑車ノ名稱ト利用法ヲ知ルコト
- 四、橈艇ノ指揮、達着、離脱及揚卸ヲ爲シ得ルコト
- 五、展帆、絞帆、脚躰法及陸岸他艦船達着離脱法ヲ知ルコト
- 六、曳船ト被曳船ノ方法ヲ知ルコト
- 七、手旗信號ノ外暴風警報、天氣豫報ノ信號ヲ判讀シ得ルコト

- 八、航路規則ノ大要ト航海日誌記載項目ノ記號ヲ知ルコト
 - 九、十以上ノ星座、名稱、太陽系ノ構成ニ就テ知ルコト
 - 一〇、隊ノ運動法協同訓練及其管理法ヲ知ルコト
 - 一一、簡易航海術ヲ知ルコト
 - 一二、連續五晝夜又ハ五回以上航海、野營ノ經驗ヲ有スルコト
 - 一三、蒸汽機關、内燃機關、電氣ノ大要ヲ知ルコト
 - 一四、本邦海上歴史ニツイテ知識ヲ有スルコト
 - 一五、法制、經濟、國體ニ就テ大要ヲ知ルコト
- 第十九條 海洋一級青年健兒ハ青年健兒ノ考查全部ニ合格シ且ツ班長以上ノ經驗ヲ有スルモノトス
合格者ニハ海洋青年健兒章ノ佩用ヲ許ス

海洋健兒、同幹部員服制並ニ諸徽章規定

海洋少年健兒

第一條 海洋健兒ノ服制並ニ徽章ヲ左ノ通り定ム

海洋健兒章 別圖ノ如キ所定ノ徽章ヲ佩用ス

帽 子 水兵帽ニ大日本海洋少年團ト記入シタル金文字入ノ帽章ヲ附シ其兩端ヲ結ヒテ後部ニ垂レ常ニ白色ノ日覆ヲ附着ス

夏季ハ白色ノ木綿製テニス帽型ヲ代用スルヲ得

上 衣 水兵服型ニシテ冬服ハ紺色ノ「ヘル」又ハ木綿地質トス

夏服ハ白色葛城地ニシテ襟ハ冬服中着ニ同シ、地方ノ狀況ニ應シ夏冬トモ「カーキ

」服地ヲ用フルモ差支ナシ

中 着 水兵用ノモノト同シ

ズボン 十四歳以下ハ半「ズボン」ニシテ十五歳以上ノモノハ長「ズボン」ヲ用フ

襦 袢 普通競技用型、水兵襦袢、地質適宜、色ハ白又ハ卵色及之ニ類似ノモノニシテ襟ニ

黒又ハ水色ノ縁ヲ附ス、冬夏何レモ半袖

襟 掛 地質適宜、赤海老茶色ニシテ普通風呂敷ノ大キサトシ、三角ニテモ差支ナシ

靴 下 適宜、半「ズボン」ニハ無地長靴下ヲ用フ

任意

靴 杖 材料輕、長サ身長ニ應シ適宜、徑二十八ミリノ圓型

團名章 上衣ノ左「ポケット」下部縁ニ團名ヲ記入シタル布片ヲ附ス

班別章 長サ十二釐、巾二・五釐ノ色「リボン」ヲ用ヒ二ツ折ニテ左肩ニ附ス

等級章 別圖所定ノモノヲ其等級ニ應シ右腕ニ附ス

年功章 縁座ニ銀星ヲ左「ポケット」ノ上縁ニ接シ右ヨリ横ニ並列シテ縫着ク一年ヲ經ル毎

ニ一個ヲ加ヘ三個ヲ金星一個ニ換フ

小 刀 任意、餘リ大型ナラザルヲ安全トス

笛 白色木綿然リ號笛紐ヲ附ケ、襟掛ノ上ヨリ懸ケ、其端ヲ左側「ポケット」ニ納ム

外 套 任意

雨 合 羽 任意

作業ニ従事スルトキハ白色地ノ水兵事業服ヲ用ヒ夏冬同一トス

大體以上ノ如ク規程スルモ地方ノ狀況ニ依リ當分ノ間各國所定ノ服裝ニテ差支ナシ但シ此ノ場合

ニハ聯盟所定ノ海洋（少年）健兒章ヲ附スルモノトス

又班長、次長ニハ別圖山形ノ赤線ヲ二線或ハ一線ヲ附ス

右ノ服制中長ズボンヲ用フル者ニアリテハ陸上作業雨天ノトキハ白色脚絆ヲ着用ス

海洋青年健兒

第二條 海洋青年健兒ノ服制並ニ徽章ヲ左ノ通り定ム

帽 子 海軍型ノ帽子ニ白色日覆ヲ附シ、帽章ニハ別圖所定ノ海洋青年健兒徽章ヲ附ス

（別圖參照）

上 衣 聯盟所定ノ金「ボタン」附ノ結襟短衣（チャツケツト）服ニシテ七個ノ釦ヲ縦ニ一

線ニ附ス

服地ハ紺色「セル」地質又ハ木綿（小倉）地質ヲ標準トスルモ地方ノ狀況ニ應シ適

宜ノ服地ニテモ差支ナシ、冬ハ紺色、夏ハ白色服地

ズ ボ ン 長「ズボン」、色ハ上衣ニ準ス

團 名 章 左胸、襟下約十釦ノ所ニ附着ス

號 笛 海洋少年健兒ノモノニ同シ

靴 適 宜

靴 下 適 宜

襪 適宜ナルモノ「リユツクサツク」ヲ可トス

外套(雨合羽) 適宜

作業ニ従事スルトキハ白色地ノ水兵事業服ヲ用ヒ夏冬同一トス

當分ノ間、地方ノ狀況ニヨリ各團所定ノ服裝ヲナス事ヲ得但シ此ノ場合ニハ聯盟所定ノ海洋(青年)健兒章ヲ附スルモノトス

尙陸上作業雨天ノトキハ白色脚絆ヲ着用スルモノトス

海洋健兒幹部員

第三條 海洋健兒幹部員ノ服制諸徽章ヲ左ノ通り定ム

帽及帽章 海軍型ノ帽子ニ鉢巻、白色ノ日覆ヲ附シ、本聯盟所定ノ徽章ヲ附ス(別圖参照)

上衣 別圖ノ如ク脊廣、折リ襟二重釦ニシテ背面腰部ノ所ヲ佛截トス

袖章 夏期ハ白色冬期ハ紺色、巾約一・六一釐ノ横一線ト同巾ノ縦三本ノ黒(白)線ヲ附

着ス

ズボン 上衣ト同色ノ長「ズボン」トス

上衣ズボントモ地方ノ狀況ニ應ジ適宜ノ色地トシ夏冬兼用セシムルコトヲ得

號 笛 幹部員ハ信號合圖用ノ號笛ヲ附着セル木綿捻リノ紐ヲ襟下ニ掛ケ左胸ノ「ポケット」

ニ納ム

但シ紐ノ色ハ海上ノ指導ニ従事スル者ニハ水色其他ニハ白色ヲ用フ

幹部作業服 白色木綿無地ノ水兵作業服(夏冬共通)

當分ノ間地方ノ狀況ニ依リ作業ニ便ナル任意ノ服裝ヲナスコトヲ得但シ此場合ニハ海洋健兒章又ハ聯盟所定ノ徽章ヲ佩用スルモノトス

海洋健兒等級及特技章考査規定

第一條 海洋健兒ノ等級ハ本聯盟所定ノ標準ニ據リ當分ノ間團長ヲシテ之ヲ考査決定セシム一級

健兒ノ姓名ハ地方聯盟ヲ經テ聯盟本部ニ通告スルモノトス

第二條 海洋健兒ノ特技ニ關スル考查ハ本聯盟所定ノ標準ニ依リ當分ノ間團長ヲシテ之ヲ行ハシ

ム其授與セル特技章ハ名稱、數量、姓名ヲ錄シ地方聯盟ヲ經テ聯盟本部ニ通告スルモノトス

第三條 等級並ニ特技考查ニ合格シタル者ニハ等級章及特技章ヲ授與ス

附 則

等級及特技章ハ所屬團長ヨリ本聯盟需品部ニテ實費ヲ以テ供給ヲ受クルコトヲ得

少年團敬禮式

要 旨

敬禮ハ各人ノ誠意ノ表徴デナクテハナラナイ。コレニヨツテ少年團健兒ハ衷心ヨリ長幼ノ席ヲ尊重シ、服從ノ途ヲ了得シ、相互ノ親シミヲ深クスルニ到リ、オノヅカラ團紀ハ確立シ、秩序ハ整然トナリ、融合和樂ノ實ヲ擧ゲ得ルデアラウ。故ニ敬禮ハ健兒指導者ヲ通ジ相互間ニ必ズコレヲ交換スルモノトス。

第一章 總 則

第一條 本法ハ少年團健兒及其部隊ノ敬禮式ヲ示スモノナリ

本則ニ規定ナキモノハ各團ニ於テ適當ニ之ヲ定ムルヲ得

但シ此場合聯盟本部ニ通報スルモノトス

第二條 皇后、太皇太后、皇太后ニ對スル敬禮ハ天皇ニ準ズ

前項以外ノ皇族、天皇ノ御名代、外國ノ元首及皇族ニ對シテハ公式ノ場合ニ限り前項ニ準ジ敬禮ヲ行フモノトス

第三條 要スレバ讓メ受禮者ノ誰ナルヤヲ告諭スルコトヲ得

第二章 單獨ノ敬禮

第一節 室内ノ敬禮

第四條 室内ニ於テハ三指舉手注目ノ敬禮ヲ行ヒ或ハ體ノ上部ヲ前約十五度ニ傾ケ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目ス

三指舉手注目ノ敬禮ハ姿勢ヲ正シ、右手ノ中ノ三指ヲ接シテ伸バシ小指ヲ托ゲ親指ニテ小指ノ爪ヲ押ヘ食指ト中指トヲ帽ノ鈎ノ右側ニアテ（着帽セヌ場合ニハ其位置ニ）掌ヲ稍左方ニ向ケ肘ヲ

肩ノ方向ニテ略々ソノ高サトヒトシクシ頭ヲ受禮者ノ方向ニ向ケ受禮者ノ眼又ハ敬禮スベキモノニ注目ス

第五條 團杖ヲ携フル場合ニハ室外ノ敬禮ヲ行フ

第二節 室外ノ敬禮

第六條 徒手ノ場合ニアリテハ特ニ規定アル場合ヲ除ク外三指舉手注目ヲ行フ但シ右手ヲ舉グルコト能ハザル時ハ其儘受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ク

第七條 携杖ノ場合ニアリテハ特ニ規定アル場合ヲ除ク外觸杖ノ敬禮ヲ行フ

觸杖ノ敬禮ハ姿勢ヲ正シ立杖ヲナシ左ノ前臂ヲ水平ニ杖ノ方ニ向ケテ托ゲ掌ヲ下向ニシ食指ガ輕ク杖ニ觸ル、位置ニ置キ（指ハ三指舉手ノ場合ト同ジクス）頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼又ハ敬禮スベキモノニ注目ス

觸杖ノ敬禮ヲナシ能ハザル時ハ其儘受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ク

第三章 部隊ノ敬禮

第一節 停止同ノ敬禮

第八條 天皇ニ對シテハコレニ正面シ隊列ヲ正シ「敬禮」ノ號令ニテ室外ノ敬禮ヲ行ヒ目迎目送シ「直レ」ノ號令ニテコレヲ止ム

此敬禮ハ車駕隊列ヨリ約三十歩ノ所ニ來ルトキ之ヲ始メ隊列ヲ去ルコト約十五歩ノ所ニ至ル時之ヲ止ム

部隊ノ指揮者ヨリ長上ニ對シ敬禮スル場合ノ方法ハ前項ニ準ズ
少年團ハ互ニ敬禮スソノ方法前項ニ準ズ

第二節 行進同ノ敬禮

第九條 天皇ニ對シテハ先驅ノ稍前方ヨリ通路ノ一側ニ沿フテ停止シ第八條ニ準ジ敬禮ヲ行フ
團族又ハ指揮者ヨリ長上ノ者又ハ友團ニ對シテハ行進ヲ停止セズ「頭右(左)」ノ號令ニテ受禮者

ニ注目シ指揮者ノミ單獨ノ敬禮ヲ行フモノトス

此敬禮ハソノ隊ノ先頭受禮者ヲ距ル約八歩ノ所ヨリ始メ受禮者ガ過去リタル後「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復セシム

第四章 獨特ノ敬禮

第一節 最敬禮

第十條 天皇ニ拜謁ノ場合ニハ最敬禮ヲ行フ

最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ取り先ヅ注目シ次ニ體ノ上部ヲ前約四十五度ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保チ帽子ハ右手ニテソノ鈎ヲ摘ミコレヲ右股ニ接シテ提ゲ帽ノ内部ヲ右股ニ對セシム

第二節 杖

第十一條 特ニ敬愛ノ意ヲ表スル場合ニ杖門ノ禮ヲ行フコトアリ杖門ノ禮ハ二列横隊ニ於ケル前後列ノ距離ヲ二步(杖門下ヲ通行シ得ル程度トス)ニ開キ兩列ヲ對向セシメタル後「杖門作レ」ノ

號令ニテ杖門ヲ作り受禮者ニ杖門下ノ通行ヲ乞フモノトス
門杖ヲ作ルニハ立杖ノ姿勢ヨリ一動ヲ以テ右手ハ杖ヲ握リタル儘肩ノ高サニ舉グルト同時ニ左手
ヲ以テ前臂ノ水平ナル程度ニ於テ杖ヲ支ヘ二動ニテ右手ヲ以テ杖ノ下端ヲ握リ三動ニ於テ杖ヲ前
方約四十五度ニ倒スト同時ニ體ノ中央前ニ持來リ兩手ヲ伸バシ前後列間ニ於テ杖門ヲ作ルモノト
ス

第三節 祝 聲 (ウヤウカ)

第十二條 少年團ハ祝福ノ歡呼トシテ彌榮ヲ唱フ、彌榮ヲ唱フル場合ニハ發聲者先ヅ「……彌榮」
ト唱ヘ次ニ唱和者一同彌榮ヲ三唱ス

徒手ノ場合ニハ帽子ノ鏝ヲ右手ニ持チ各唱毎ニ兩手ヲ同時ニ上下シ、携杖ノ場合ニハ杖ヲモチタ
ル儘各唱毎ニ兩手ヲ上下シ、歡呼スルモノトス

第十三條 總長ニ對シ敬愛ノ意ヲ表スルタメ必要ノ場合「總長歡呼」ヲ行フ

總長歡呼ハ發聲者「エイエイオー」ト唱ブルヤ唱和者ハコレニ應ジテ「エイエイオー、エイエイ

オー何某總長、總長！」ト唱フ。其場合右手ヲ前方稍々四十五度ノ高サニ舉ゲ指ハ三指敬禮ノ場
合ト同ジクシ、各唱毎ニ前ニ突キ進ムル様動カシ、最後ニ總長ノ唱和ト同時ニ高ク天ヲ突クモノ
トス

第四節 左手 握手

第十四條 少年團健兒ハ必要ノ場合相互ニ同胞ノ精神ヲ表ス表象トシテ左手ノ握手ヲナス

第五節 拜 禮

第十五條 拜禮ハ神佛ニ對シテ行フ。其方法ハ最敬禮トス
但シ拍手、合掌等ノ慣例ニ從フコトヲ得
遙拜ハ前項ニ準ズ

ボーイスカウト運動國際會議及 國際事務局定款並細則

第一條 ボーイスカウト國際會議ハ一ヶ若シクハ一ヶ以上ノ信認スベキボーイスカウト組織ヲ有スル國毎ニ六名ヲ限り選舉又ハ任命セラレタル代表者ヨリ成立ツモノトス該ボーイスカウト組織ハ適法ニ登録セラレ國際委員會理事ノ保證ニ依リ委員會ニ於テ承認セラレタルモノタルベシ

一國內ニ前記ノ如キ組織一ヶ以上ヲ有スル場合ニハ代表者ハ各組織ニ對シ等分セラレベキモノトス

第二條 目的

國際會議ノ目的ハ相互協力ニ依リ世界ヲ通ジテ目的ノ統一トスカウト法ノ根基理論ニ對スル共通ノ理解トヲ促進セシムルニ在リトス

第三條 國際會議ハ協定ノ上遲滯ナク通告セラルベキ時期及場所ニ於テ二ヶ年毎ニ開催セラルベシ國際會議ニ於ケル投票權ハ一國一票トス

第四條 毎二ヶ年ノ國際會議ニ於テ互選セラレタル九名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ヲ設ケ一會議ヨリ次ノ會議ニ至ル二ヶ年ノ期間ニ於テ國際會議ヲ代表スルモノトス

前記ノ外總長ロード・ロバート・ベーデンボウエル氏及國際事務局理事ハ何レモ投票ヲ要スルコトナクシテ委員會ノ一員タルベキモノトス

第五條 各事件ハ出來得ル限り文書ニヨリ國際委員會ニ提出スルモノトス若シ必要ナル場合ニハ委員會ハ多數ノ決定ニヨリ其決定セル場所及時日ニ於テ會合スルコトヲ得、カカル會合ニ於テハ出席者中ヨリ議長ヲ選舉スルコトヲ要ス

會合ノ召集ハ總テ委員會員ノ受取ルヤウニ郵送スルコト、普通ノ場合ニハ少クトモ決定セル時ノ日ノ三十日前タルベシ而シテ該通知ニハ出來得ル限り該會合ノ會議事項ヲ添フルコトヲ要ス委員會員ハ他ノ委員會員又ハ理事ニ托シタル委任狀ニヨリ會合ニ於テ表決スルコトヲ得

第六條 國際委員會ハ次ノ二年目ノ國際會議ニ於テ後任者ノ互選セラル、迄執務シ左ノ權限ヲ有スルモノトス

一、承認並登録ヲ申込ミタル組織ニ對シテ審査ノ上現ニ加盟シアル各聯盟ヘ協議ノ上入會承認若シクハ取消ヲ行フ件

何レカノ三ヶ國ニ於テ承認ニ反對スル時ハ次回國際會議ノ時期迄該件ハ留保セラルベキモノトス

二、毎二ヶ年ノ國際會議規定及次第ヲ定ムルノ件

三、國際事務局ノ事務監理ノ件

四、委員會ニ於テ左記其他必要ナリト認ムル事項ヲ委任スルタメ國際事務局理事ヲ選任スル件

イ、各國ニ互リスカウト雜誌用トシテ告示、記事蒐集編纂ノ件

ロ、共同ノ目論見即チ國際通信、國外相互訪問ノ交換重要ナル國際祝典ニ參列、野營等ニ關スル件

ハ、加盟申込ニ關スル各種問合セ又ハ助力希望等ニ關スル件

ニ、ジャムボリー誌ノ發行並ニ之ニ關シ各國ニ於テ指名シタル通信當事者相互協力ニ關スル件

ホ、各種會議集會ノ企畫ニ關聯シタル事務ノ件

ヘ、加盟聯合國若クハスカウト組織アラザル國ニ於テ適良ニ設立セラレタル當局ヨリノ請求アリタル場合指導者ノ差遣又ハスカウト叢書ノ發送等ニ關スル件

五、毎二ヶ年ノ會議ヨリ會議迄ノ期間國際會議ヲ代表スルノ件

六、委員會ニ缺員ヲ生ジタル場合補缺ノ件

第七條 國際委員會役員

國際委員會ハ國際事務局ノ理事ヲ選任ス該理事ハ職責上國際委員會ノ理事並財務主任タルベシ國際委員會ハ名譽會長及一名若シクハ其レ以上ノ名譽副會長其他必要ト認ムル役員ヲ選任スルコトヲ得

第八條 財務

第一節 國際理事會ニ於テ適法ニ承認登録シタル各組織ハ隨時國際委員會ニ於テ規定スル年度登録料ヲ騰出スルモノトス

國際事務局ノ維持其他國際委員會ニ於ケル支途ニ對シ國際委員會ニ於テ承認セラレタル豫算ニ要スル經費ハ國際理事會ニ於テ適當ト認メラルベキ割當ニ由リ各聯盟ヨリ領收スル資金及個人寄附金等ヲ支辨セラルベシ

第二節 資金ハ總テ財務主任ニ委託シ國際委員會ニ於テ承認シ國際事務局理事ニ於テ保證シタル豫算ニ基キ國際委員會ノ行爲ニ從ヒ財務主任ニ依リ支出セラルベキモノトス

第三節 財務主任ハ年度會計報告ヲ各委員ニ提出シテ承認ヲ受ケタル上國際事務局登録ノ各聯盟ニ送付スベキモノトス

第九條 定款及細則ノ改正

本定款及細則ハ毎ニケ年國際會議ノ際總數三分ノ二以上ノ投票ニ依リ改正スルコトヲ得但改正案ノ通知ハ尠クモ會議ニケ月以前ニ於テ登録ヲ聯盟全部ニ郵送セラルベキモノトス

追加

一、諸般事項ハ出來得ル限り信書ヲ以テ國際委員會ニ提出セラルベキモノトス但シ要スルトキハ委員會ハ其ノ過半数ニ依リ決定セラレタル時期及場所ニ於テ招集スルコトヲ得ベシ此場合座長ヲ互選スルモノトス

一、招集通知狀ハ通常ノ場合尠クモ期日三十日以前ニ各委員ニ到達スルヨウ郵送セラルベキモノトス通知ハ出來得ル限りノ程度ニ於ケル會議日程ヲ添フベキモノトス
一、委員ハ委員會内ノ他ノ委員若シクハ理事ニ投票ヲ委任スルコトヲ得

附

錄

ボーイ・スカウト国際會議及事務局現況

ボーイ・スカウト運動ニ關スル各國間ノ相互理解及目的ノ統一促進ヲ圖ルタメ先ニ掲ゲタル定款並細則ニ基キ國際會議及國際事務局ヲ設置シ二ケ年毎ニ國際會議ヲ招集シ開會期間中ハ九名ノ國際委員ヨリ成ル委員會ヲ常置シテ國際會議ヲ代表セシメ又在倫敦英國ボーイ・スカウト聯盟本部内ニ國際事務局ヲ常置シテ委員會ニ屬スル事務及會計上一切ノ處理ニ任ゼシム。

現任委員ハ國際總長 ベーデン、ボーウエル氏、國際事務局理事 ヒューバート・マーチン氏ノ外日、英、米、佛、瑞典、瑞西、諾威、波蘭、洪牙利國各一名合計九名ニシテ ベーデン ボーウエル 總長ヲ會長トス。

事務局ニハ理事ノ外英國ボーイ・スカウト指導者ノ資格アル書記三名ヲ常任ス。

國際會議ハ第一回ヲ一九二〇年倫敦ニ、第二回ヲ一九二二年巴里ニ、第三回ヲ一九二四年コーペンハーゲン、第四回ハ一九二六年瑞西カンデルステツグニ開催シ、第五回ハ一九二九年倫敦ニ開催

シ、第六回ハ一九三一年埃國ウインニ於テ、第七回ハ一九三三年洪牙利ゲデレニ於テ開催セリ。

國際事務局ハ第一回國際會議ノ當時新設セラレ、國際委員會ハ第二回國際會議以降選任セラレタリ。

現ニ國際會議加盟ノ承認ヲ受ケ事務局ニ登録セラレタルボーイスカウト聯盟ノ國別左ノ如シ。

アフガニスタン	アメリカ合衆國	アルゼンチン	オーストリー
ベルギー	ブラチル	ブルガリヤ	チリ
コロンビヤ	キューバ	チエツコスロバキヤ	デンマーク
ドミニカ	エクアドル	エジプト	エストニヤ
フィンランド	フランス	イギリス	ギリシヤ
グワテマラ	ハイチ	オランダ	ハンガリー
アイスランド	イラク	日本	ラトビヤ
リヒテンシュタイン	リベリヤ	リスアニヤ	ルクセンブルグ

メキシコ ノルウェー パナマ ベルシヤ
 ペルレー ポーランド ボルトガル ルーマニヤ
 シヤム イスパニヤ スウェーデン スイス
 シリヤ ユーゴスラビア
 本國外ノ露西亞スカウト團

佛國ニ於ケルアルメニヤスカウト

合計四十八ヶ國ニシテ佛蘭西ハ三ヶ、白耳義、埃太利、丁抹、フィンランド、ルクセンブルクノ五ヶ國ハ各二ヶノ聯盟承認登録セラレアリ。

第三回國際會議ノ際一國ニ二ヶ以上ノ聯盟アルモノハ一聯合體ヲ組織スルコトヲ決議セラレタリ

少年團日本聯盟組織一覽表

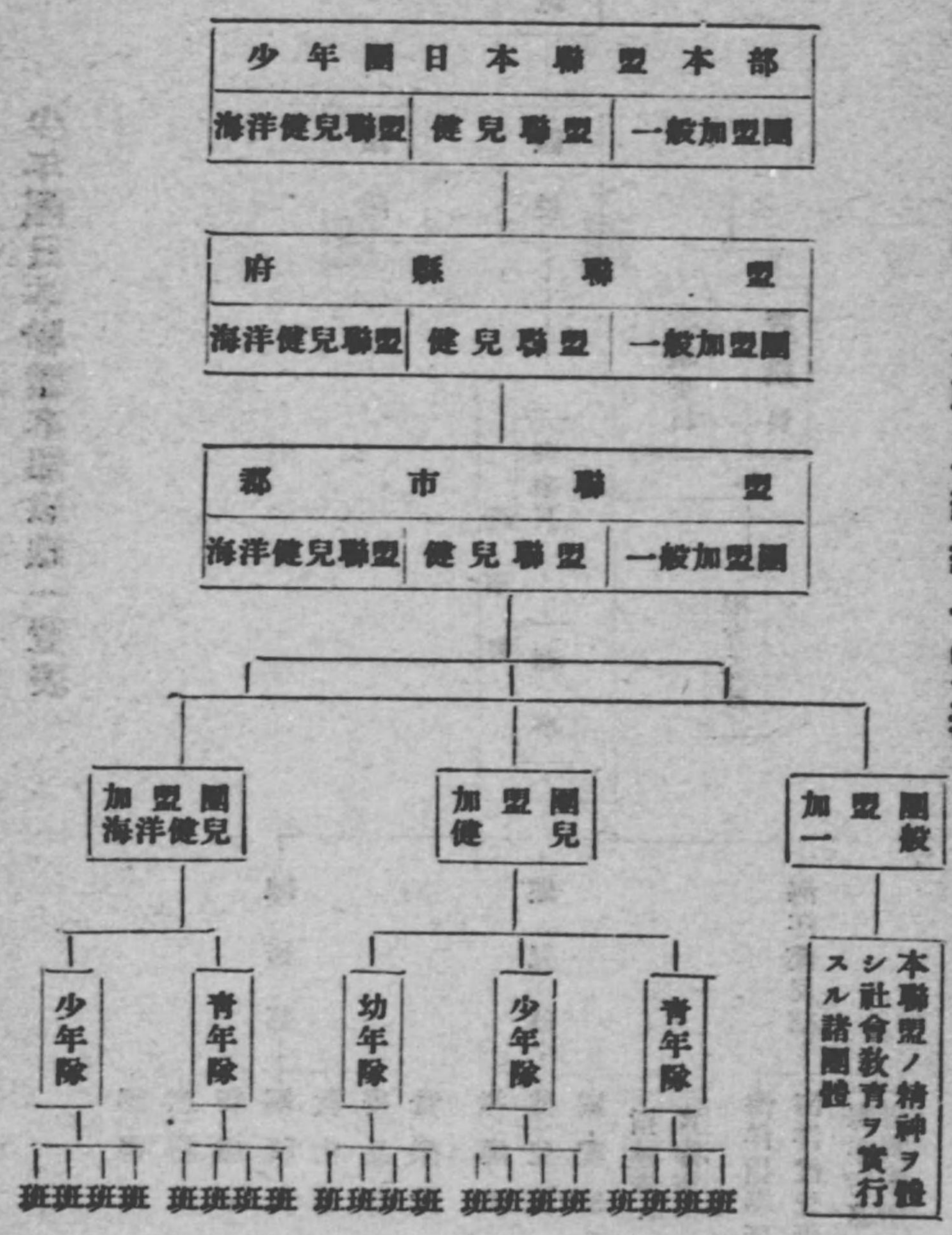
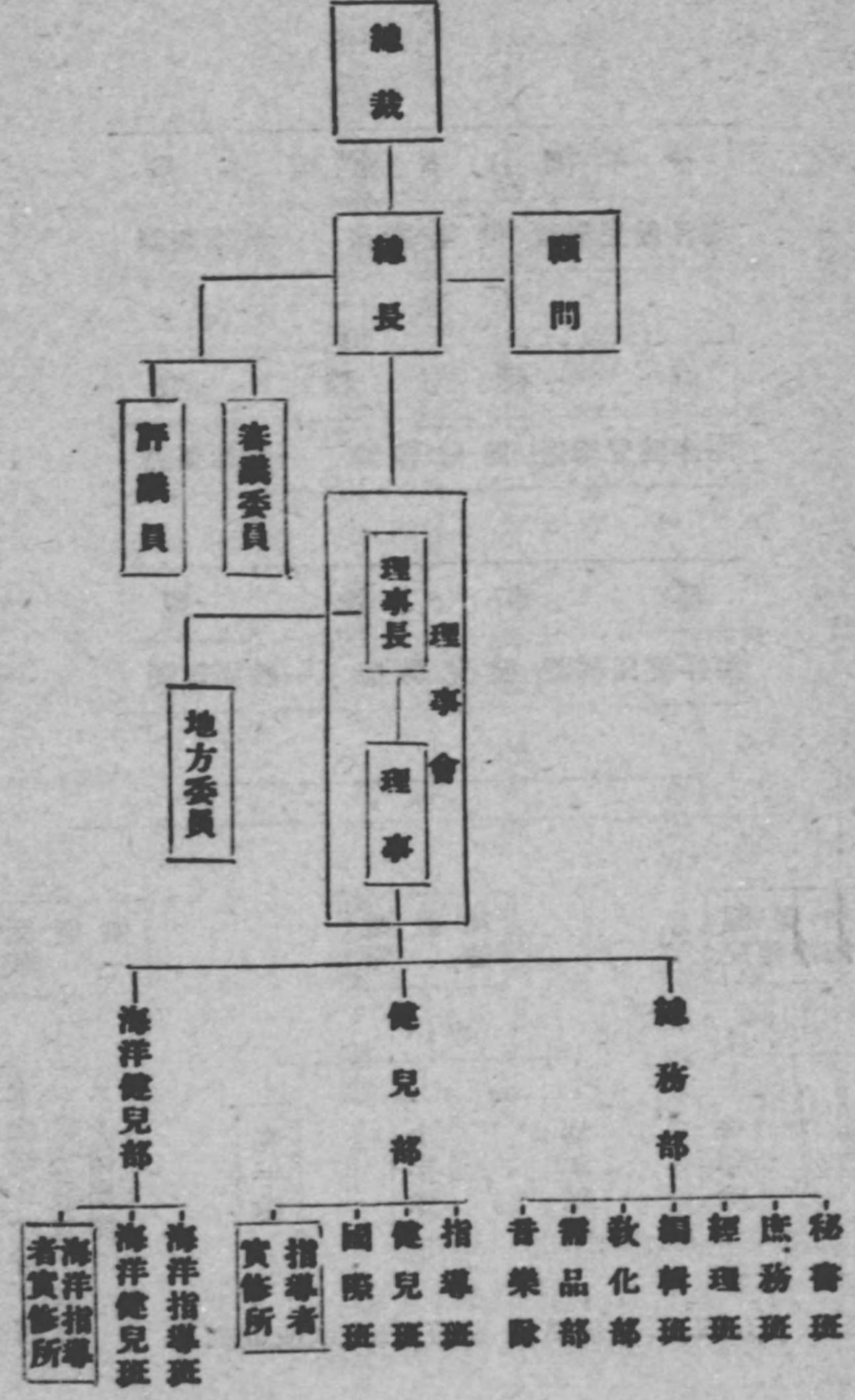
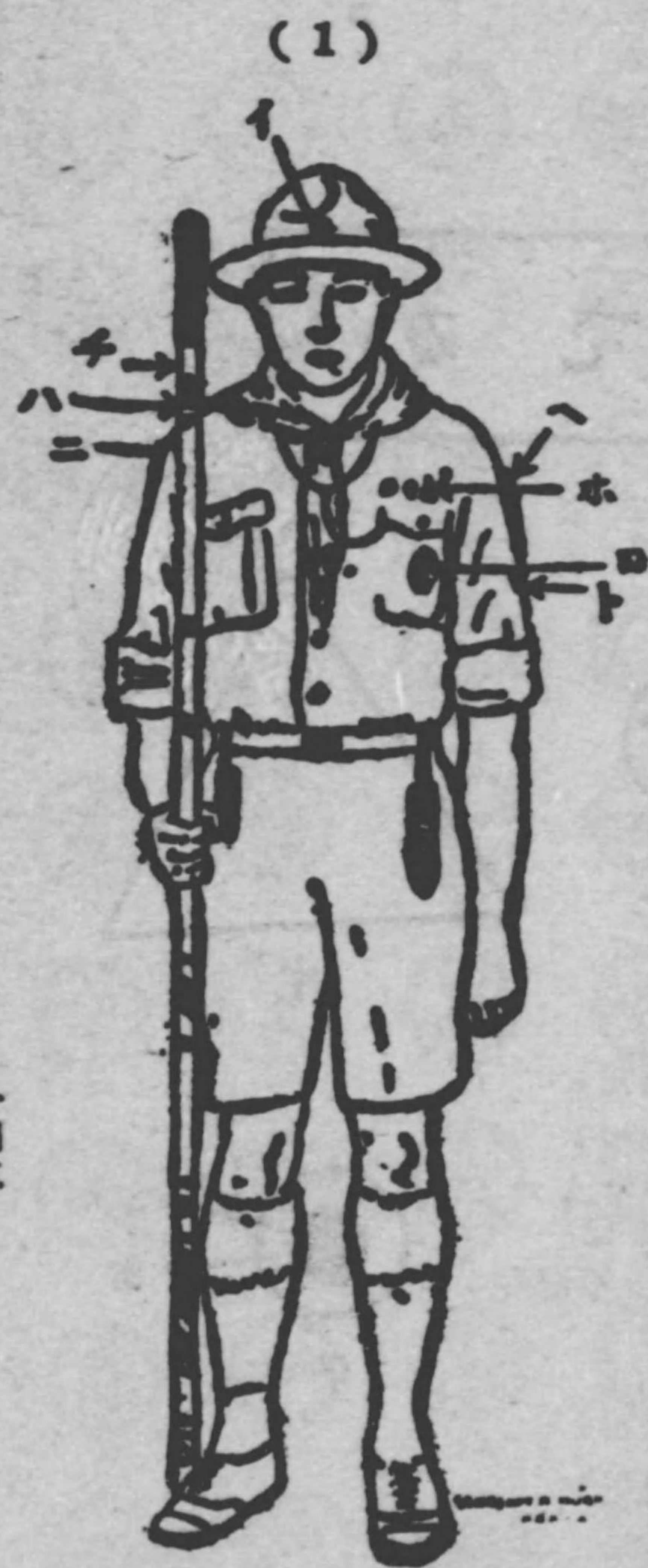


圖 版

少年團日本聯盟本部組織一覽表





1. 少年健兒

- イ、帽 章 (健兒章)
- ロ、胸 章 (健兒章)
- ハ、襟 掛
- ニ、團 名 章
- ホ、年 功 章
- ヘ、班 別 章
- ト、等 級 章
- チ、團 杖

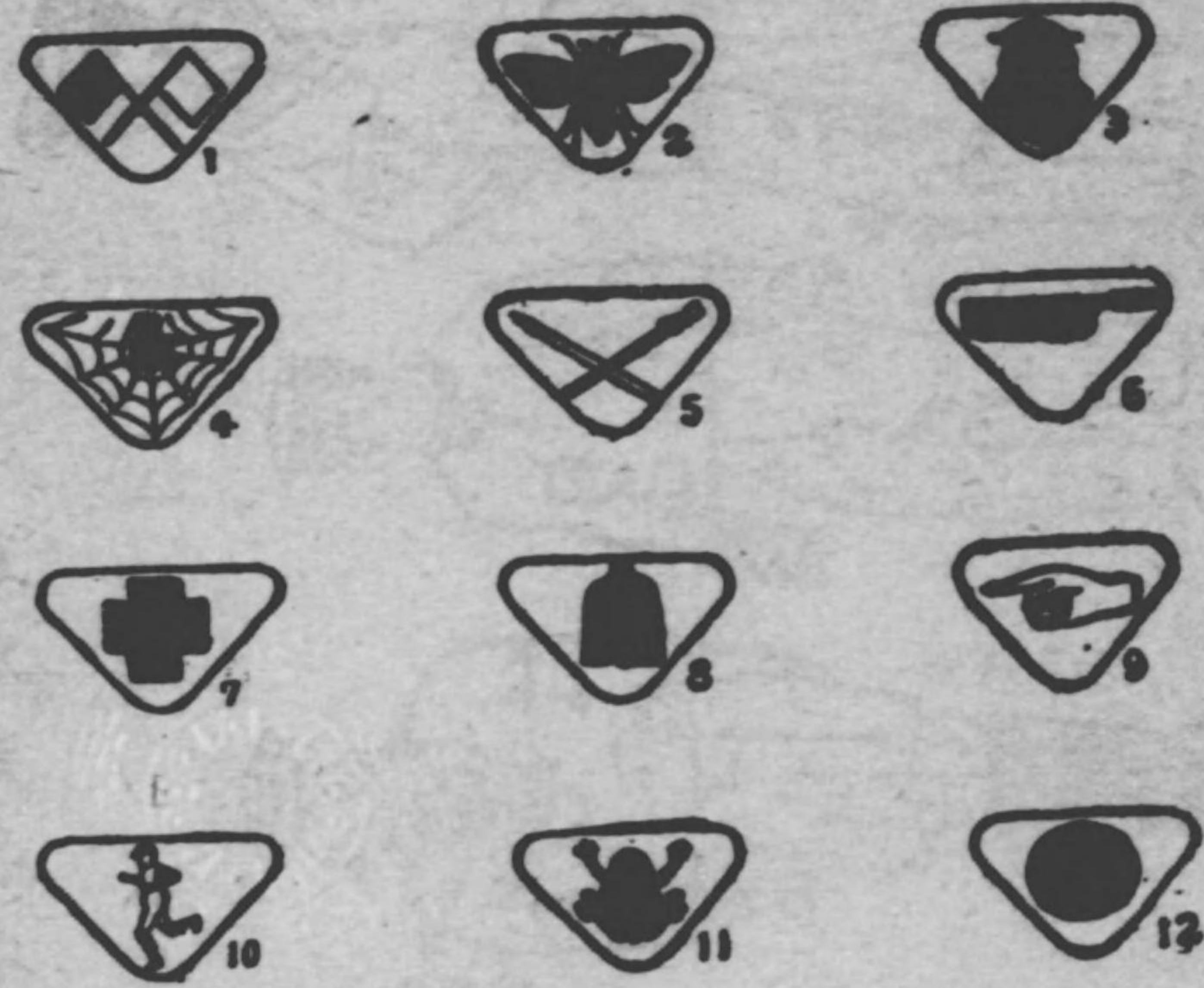
2. 幼年健兒

- イ、帽 章
- ロ、胸 章
- ハ、襟 掛
- ニ、團 名 章
- ホ、年 功 章
- ヘ、組 別 章
- ト、等 級 章

3. 幹部上衣

- イ、聯 盟 章

幼年健兒特技章

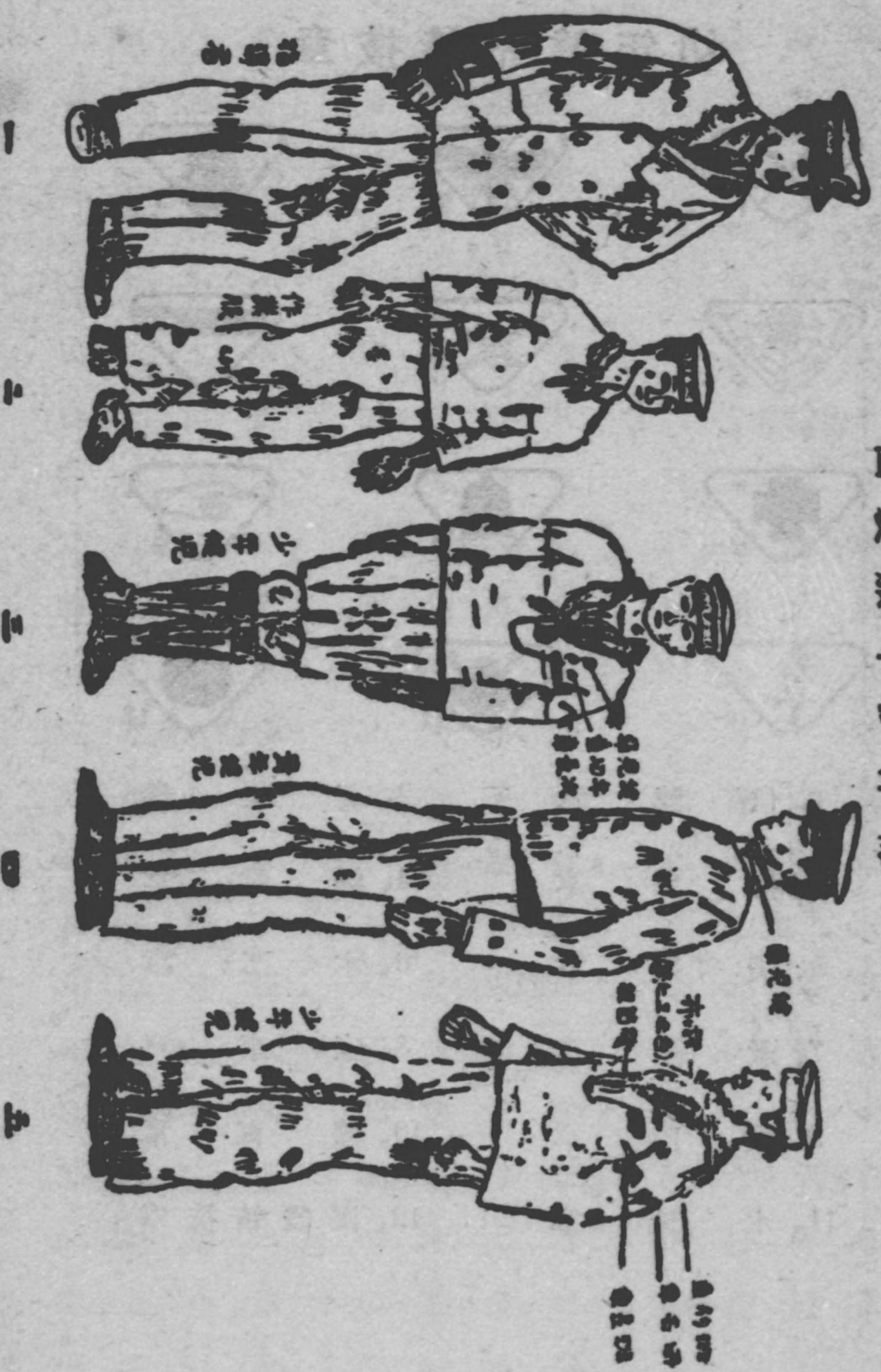


- | | |
|--------|----------|
| 1、信號章 | 2、蒐集章 |
| 3、觀察章 | 4、編物章 |
| 5、美術章 | 6、木工章 |
| 7、救急章 | 8、家事章 |
| 9、案內章 | 10、體育章 |
| 11、水泳章 | 12、團體競技章 |

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 案內章 | 2 石工章 | 3 印刷章 |
| 4 園藝章 | 5 沿岸監視章 | 6 音樂章 |
| 7 工作章 | 8 革細工章 | 9 籠造章 |
| 10 家畜章 | 11 機關章 | 12 救急章 |
| 13 弓術章 | 14 騎乘章 | 15 漁撈章 |
| 16 金工章 | 17 繪畫章 | 18 建築章 |
| 19 劍道章 | 20 航空章 | 21 公衆衛生章 |
| 22 個人衛生章 | 23 裁縫章 | 24 柔道章 |
| 25 自轉車章 | 26 自動車章 | 27 事務章 |
| 28 射擊章 | 29 寫真章 | 30 手技章 |
| 31 消防章 | 32 信號章 | 33 水泳章 |
| 34 水難救助章 | 35 炊事章 | 36 スキ一章 |
| 37 相撲章 | 38 製茶章 | 39 製圖章 |
| 40 洗濯章 | 41 漕艇章 | 42 測量章 |
| 43 測候章 | 44 體育章 | 45 竹細工章 |
| 46 彫刻章 | 47 鳥類保護章 | 48 通譯章 |
| 49 電氣章 | 50 電信章 | 51 天文章 |
| 52 陶工章 | 53 農業章 | 54 博物章 |
| 55 棒術章 | 56 紡織章 | 57 水先案內章 |
| 58 無電章 | 59 木工章 | 60 野營章 |
| 61 養魚章 | 62 養禽章 | 63 養蠶章 |
| 64 養蜂章 | 65 喇叭章 | |

圖裝服年少洋海

140



昭和十年二月十日印刷
昭和十年二月十二日發行

少年團日本聯盟諸規程〔非賣品〕

編輯
行人兼

東京市麹町區三年町一番地
文部省構内・少年團日本聯盟代表者
寺岡一義

印刷
人

東京市京橋區西八丁堀四丁目四番地
白橋龍夫
電話京橋(56)六八八二番

發行所

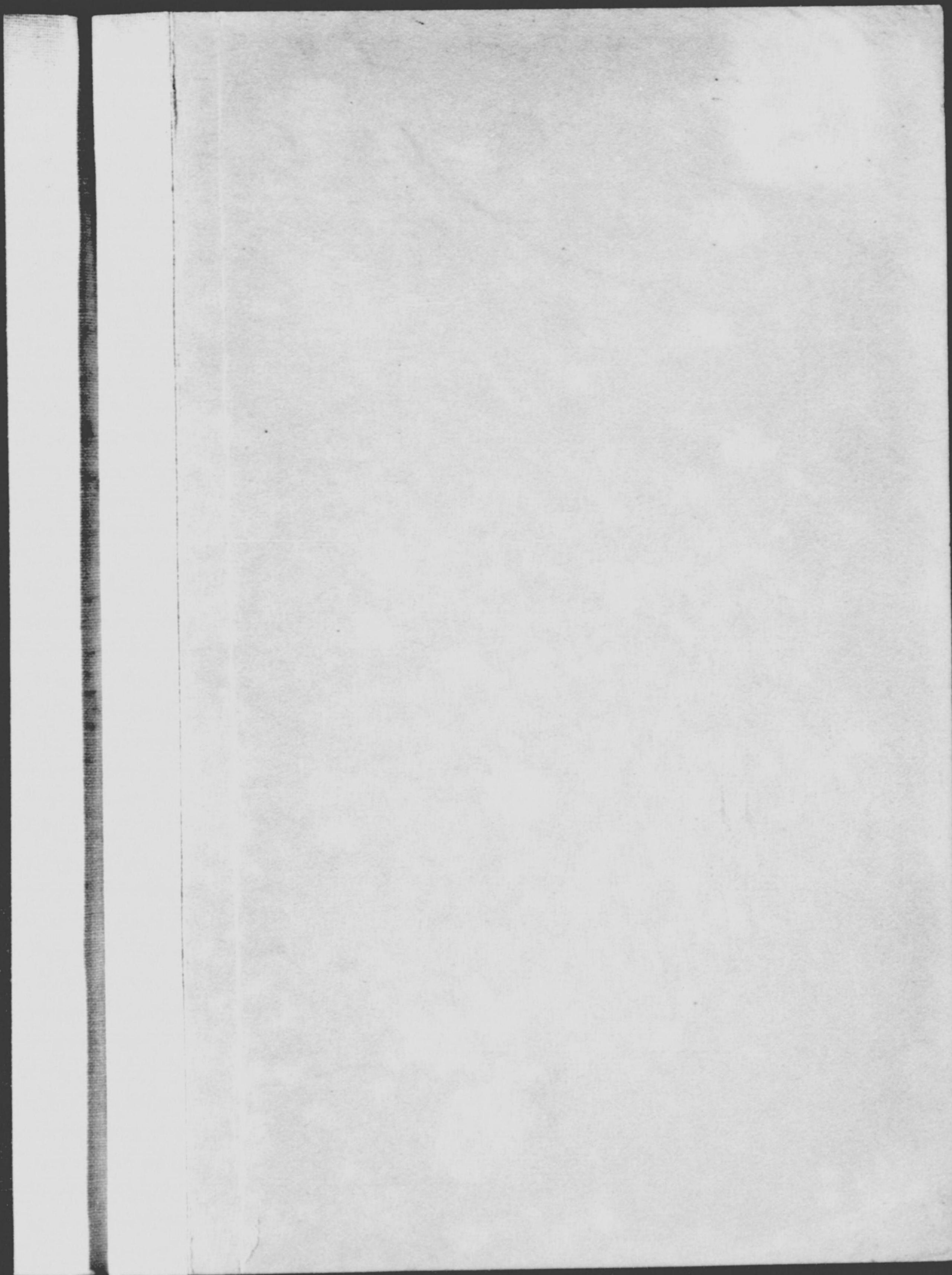
東京・文部省構内

少年團日本聯盟

電話銀座(57)一九七九
振替東京三二三〇

(行印所刷印橋白)

279
110





Blank white rectangular area, possibly a label or a redaction mark.